

第5章 計画の推進に向けて

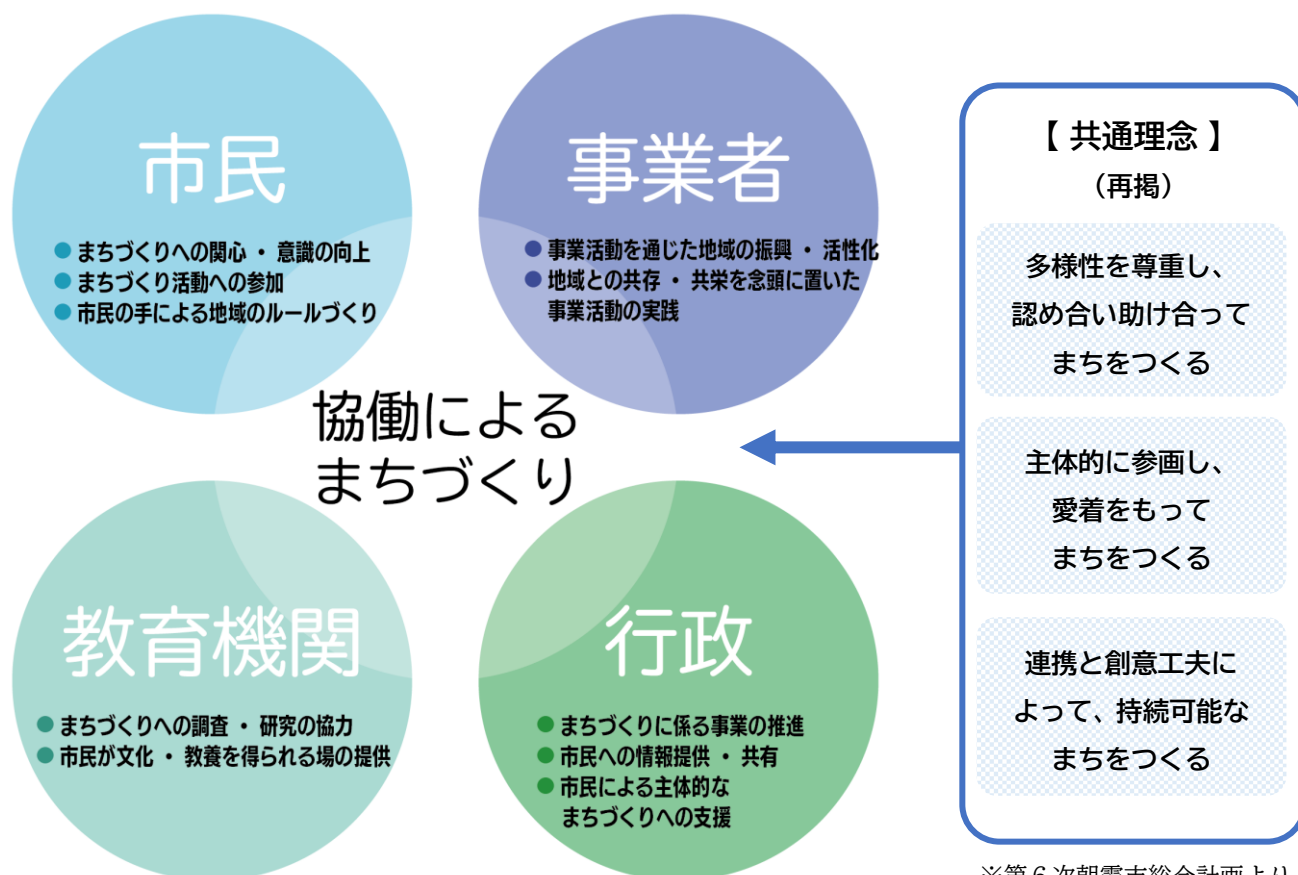
第2章から第4章では、将来像やテーマ別まちづくり方針、地域別まちづくり構想等、本市におけるまちづくりの基本的な方針を示しました。本章では、持続可能なまちづくりの実現に向けた取組を展開するための体制や進行管理の方法、推進方策について示します。

1 多様な主体との“協働”によるまちづくり

人口減少や少子高齢化の進行、持続可能な社会の構築に向けた取組の進展等、本市を取り巻く複雑な社会背景の中で、まちづくりを進めていくためには、各主体による取組の強化を図るとともに、多様な主体との連携・協働に基づいたまちづくりを、より一層推進していくことが求められます。

まちづくりの担い手である「市民」「事業者」「教育機関」「行政」の主体ごとに本市が目指す将来像の実現に向けて果たすべき役割を整理し、第6次朝霞市総合計画の基本構想に示す共通理念のもと、多様な主体の連携・協働によるまちづくりを推進します。

■まちづくりの担い手である各主体の役割と“協働”によるまちづくりのイメージ



※第6次朝霞市総合計画より

■「市民」や「事業者」、「教育機関」のそれぞれが担う主な取組

		まちづくりの担い手		
		市 民	事 業 者	教 育 機 関
まちづくりのテーマ	安全・安心	・建物の耐震化、防火対策の実施 ・ブロック塀等の耐震化・撤去 ・日頃から「もしも」に対する備え ・共助の体制強化（助け合える関係づくり）	・水害や土砂災害等の災害リスクへの対策の実施 ・災害リスクや被災時の行動の周知 ・共助の体制強化（地域との関係づくり）	・災害リスクに対する調査・分析 ・災害の危険性や避難行動の教育 ・学習の機会の提供
	自然・環境	・環境に優しいモビリティの選択 ・緑化や植栽の適切な維持管理 ・環境にやさしい住宅の整備（創エネ、省エネ）	・環境に配慮した施設整備 ・アダプト制度への参画	・自然・環境に関する研究・教育 ・学習の機会の提供
	快適な移動	・交通ルール of 周知・徹底 ・自家用車以外のモビリティの選択	・公共交通等の利用の推奨 ・新たな移動手段の導入	・本市に適した移動手段の研究・開発 ・新たな移動手段や交通ルールの普及・啓発 ・学習の機会の提供
	にぎわい・活力	・イベント等への参画 ・市内商店の利用	・市内でのイベント等の実施 ・市内の事業者、教育機関とのコラボレーション ・市内での事業拡大	・地域に応じたにぎわいづくりの研究・実証 ・学習の機会の提供
	私らしい暮らし	・オープンスペースの活用 ・私らしく働く場、活躍できる場の活用 ・交流の場への参画	・開発や研究のテストフィールドとしての活用 ・共創空間（リビングラボ等）の創出・運営	・学習の機会の提供

行 政

<役割>

- ・まちづくりに係る事業の推進
- ・市民への情報提供・共有
- ・市民による主体的なまちづくりへの支援

2 将来像の実現に向けた推進方策

(1) 既存制度の適切な活用・運用

本計画の実施に向けたまちづくりの手法として、都市計画法等に基づく諸制度や、条例等による本市独自の規制・誘導制度、官民が連携して取り組む等、様々な手法があります。まちづくりに関わる多様な主体との協働のもと、これらの制度を活用してまちづくりを進めるとともに、適切な運用を行います。

各施策・事業の実施にあたっては、本市の単独事業に加え、必要に応じて国、県の事業・制度等の活用を図るとともに、関係機関への協力の要請に努めます。

特に国道 254 号バイパスの第 2 期整備や河川改修等の広域的な見地から行われる国・県等の事業や施策について、関係機関との連携を強化するとともに、本市のまちづくりの基本的な方針を示し、理解と協力を求めています。

■本計画の実現に向けて想定される主な手法

区 分		主 な 手 法
規制・誘導 手法の活用	法に基づく 規制・誘導手法	(区域区分) 市街化区域、市街化調整区域 (地域地区) 用途地域、防火地域・準防火地域、高度地区、 特別緑地保全地区 等 (その他の制度) 地区計画、景観計画、建築協定、緑地協定 等
	市が独自に 決める規制・ 誘導手法	地域特有の政策の実現や課題の解決のために制定する もの(まちづくり条例、景観条例、建築物に関する条 例、緑化条例等)
	市民等の 自主的な まちづくり手法	まちづくりのルールづくり(任意協定、景観・緑化 等、きめ細かなルールづくり 等) 都市計画提案制度(用途地域の変更、高度地区の指定、 地区計画の策定 等)
都市計画事業の推進		都市計画道路事業、土地区画整理事業、 公園事業、下水道事業 等
各分野の施策との連携		福祉・環境施策の充実や地域資源の活用など、ソフト 分野の施策との連携を深めます。 ・コミュニティ(地域共同体)、 NPO(民間非営利組織)、ボランティア活動の支援 ・祭り、イベントの開催・運営 等

■本市において想定されるまちづくりの主な手法とその使い方

まちづくりの 主な手法	制度の概要	本市での使い方
都市計画提案制度	・土地所有者やまちづくり法人等が一定の条件を満たした上で、県や市に対し都市計画の提案ができる制度です。	・各地域をより良くするための提案を頂き、市民等と連携して地域特性に応じたまちづくりを進めていきます。
区域区分 ・市街化区域 ・市街化調整区域	・無秩序な市街化を防ぎ、計画的なまちづくりを行うため、都市計画区域を「市街化区域（すでに市街地を形成している区域及び概ね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域）」と「市街化調整区域（市街化を抑制すべき区域）」に区分し、適切な土地利用を誘導するものです。	・内間木地域や黒目川沿いに設定されている市街化調整区域では、市街化を抑制し、残されている農地や緑地、水辺空間等の貴重な資源を適切に保全します。
用途地域	・住居、商業、工業等種類の異なる土地利用が混在すると、お互いに生活環境や業務の利便性に支障を来すことから、それぞれの土地利用に合った環境を保ち、効率的な活動を行えるよう、都市を 13 種類に区分し、それぞれの地域にふさわしい建物の用途や形態（容積率、建ぺい率等）を定め、適切に運用するものです。	・駅周辺に指定されている商業系用途地域や工業系用途地域においては、経済・産業活動の維持や利便性を確保するよう土地利用の適切な運用を行います。あわせて周辺の住宅地等、周辺環境との調和に配慮するよう誘導を図ります。 ・用途区分や形態規制の見直しや戦略的な土地利用・転換が求められる場合、用途地域の見直しを行います。
防火地域・ 準防火地域	・市街地の火災による延焼の危険性を防ぐため「防火地域・準防火地域」を指定し、建物の構造等の規制により火災に強い地域の形成を図るものです。	・駅周辺や建物の密集度が高い地域を対象に指定し火災に強い地域を形成します。

■本市において想定されるまちづくりの主な手法とその使い方（つづき）

まちづくりの 主な手法	制度の概要	本市での使い方
地区計画	・用途地域等による制限に加えて、建てられる建築物の用途、高さ、敷地面積、生垣の配置や建物の色彩等、その地区ごとの特性に応じたきめ細やかな制度内容（まちづくりのルール）を決めることにより、住みよいまちへの誘導を目的とした制度です。	・駅周辺におけるにぎわい・魅力ある空間を創出します（壁面後退、用途制限）。 ・宮戸二丁目地区、岡一丁目地区、根岸台二丁目地区、根岸台七丁目東地区・西地区では、良好な住環境を形成します（公共施設の配置、用途制限、敷地面積制限等）。 ・基地跡地や国道 254 号バイパス沿道等の市街化調整区域においては、無秩序な市街化を抑制し、計画的な土地利用を誘導します。 ・既存の地区計画についても、本市の目指す将来像や社会動向等と照らし適切な内容となっているか確認し、必要に応じて見直します。
まちづくりに関連する条例	・地域の特性に合わせて、より良いまちなみや住環境を守り育てるために市が独自に定めるルールのことです。	・地区計画区域内における建築物の制限に関する条例や、朝霞市開発事業等の手続き及び基準等に関する条例等、まちづくりに関する様々な条例・要綱（ルール）を適切に運用します。 ・また、本計画や立地適正化計画等各分野の様々な計画に基づき、関連する条例・要綱（ルール）が連携しながら、まちづくりを推進します。 ・多様な主体がまちづくりに関わりやすくなるルールづくりについて検討を進めます。

(2) まちづくりの持続的な発展に向けて

■基本的な考え方

本計画の将来目標は、策定時から概ね 20 年後を見据えて検討したのですが、まちづくりは 20 年という期間に限定されるものではなく継続的に取り組むものです。本計画に基づく施策のほかにも、いつまでも住み続けたいまちとして持続的に発展していくため、様々なまちづくりに関する取組を進めていきます。

■取組内容

①まちづくりの人材確保

市民が主催する活動や NPO（民間非営利組織）等の団体、ボランティア等まちづくりに関する組織への支援のほか、企業、大学等の専門機関との連携も進める等、まちづくりを担う人材の確保・支援のための方法の検討を進めます。

まちに対する愛着を育て、将来的にまちづくりに関わりを持つ担い手を育成していく観点から、学校教育や生涯学習の中で、地域特性をふまえたまちの再認識や、身近なまちづくりへの参画手法の提示、まちづくりを考える機会の提供等、教育とまちづくりとの関わり方について検討します。

行政においては、市民、事業者、教育機関が協働のまちづくりを行う上で抱えている課題への対応や、様々な活動間の調整等が求められていることから、研修や地域での実践的なまちづくり活動への参画等を通じて、多様な市民、事業者、教育機関のニーズ等に柔軟に対応できる専門性の高い職員の計画的な育成に努めます。

また、行政だけで進めるのではなく、市民、事業者、教育機関が主体となって動ける組織を作ることへの支援も重要です。具体的には、特定のエリアにおいて市民、事業者が主体となって良好な住環境やまちの価値を維持・向上させる活動（広場でのイベント、清掃活動、防犯活動等）を担うエリアマネジメント組織や都市再生特別措置法等に基づき意欲のある団体を公的に認定し計画の提案、実現へと動かす仕組み等が挙げられます。

②まちづくりの財源の確保

今後も引き続き効率的、効果的な事業の実施に努めるとともに、効率的な収益事業のあり方や適正な公共サービスの受益者負担、開発利益の還元等を検討し、より良いまちづくりを進めるための健全な財政運営を図ります。

国・県等の補助の有効活用等による適切な財源確保に努め、必要に応じてまちづくり基金等、新たなまちづくり財源の活用や、PPP/PFI、ネーミングライツ、ガバメントクラウドファンディング等、民間活力の導入も検討します。

まちづくりの財源を有効に活用していくため、市民や事業者、教育機関等の立場からの意向もふまえ、重点的に推進すべき施策を選定するとともに、実効性のある推進プログラム化を図り、長期的な視点にたった計画的・効率的な財政運営に努めます。

③多様な主体がまちづくりに関わりやすくなるルール等の検討

まちづくりを行う主体である市民、事業者、教育機関、行政のそれぞれの役割分担と相互の協働によってまちづくりを進めるため、都市計画制度の一層の活用はもとより、現行の法制度にとらわれない本市独自のまちづくりについても進められるよう、土地・建物の利用、景観・まちなみ、自然環境の保全等様々な分野にわたる、市全域や各地域の特性に応じたまちづくりについて、市民との連携、役割分担等のあり方も含めた本市にふさわしいルールづくりを検討していきます。

また、市民、事業者、教育機関、行政等の協働によるまちづくりに対する理解と協力を深めるため、まちづくりにおける協働の理念の共通理解を図り、協働のための体制整備を進めるとともに、各主体のまちづくりに対する責任や役割の明確化についても検討します。

（３）最新技術を活用したまちづくりの推進

都市計画基礎調査をはじめ、3D都市モデルやビッグデータ等まちに関わるデータを分野横断的に統合・可視化する等、まちづくりのDX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、持続可能な都市開発、災害対策等に資する環境整備を検討します。

市民や企業（事業者）、大学等が自ら発案するボトムアップ型のまちづくりを支援するため、市民等が情報やデータを収集し、これに基づいて地域の問題解決策を自ら考えることのできる環境整備を検討します。

庁内各課で個別に管理されていたまちづくり等に関わる基礎データについて、GIS（地理情報システム）等の活用により庁内業務の効率化を図るとともに、まちづくり情報の見える化を推進します。

次世代モビリティ等最新技術の積極的な活用を検討し、市民の生活利便性の向上を図っていきます。また、まちづくりにあたっては、多様な主体の理解・協力が不可欠であることからICTやAI、SNS等を活用したまちづくりの見える化や積極的な情報発信を推進していきます。

（４）周辺自治体・県・国等との連携

広域的な都市計画の調整やまちづくりに関する相互の情報交換、及び既存施設の相互利用や広域的な公共サービスの向上、充実を図るため、周辺自治体等との連携強化を図ります。

3 取組の評価と進行管理

今回の都計審の結果を
踏まえ内容を更新予定

(1) 取組の評価と進行管理の必要性

本計画に基づく取組を着実かつ効果的に展開するためには継続的な評価と透明性の高い進行管理が必要です。

取組の評価では、本計画に位置づけた各テーマの方針や方針に基づく基本的な考え方に對する達成状況、方針等の実現に向けた取組の進捗状況を、総合計画と連携した定期的なモニタリングにより検証します。

取組の進行管理では、既存の「都市計画審議会（まちづくりの進捗度合いの報告）」及び「庁内検討委員会（庁内の協議調整の場）」の2つの会議体を活用し、取組の進行を管理していきます。

以上のような取組の評価と進行管理の仕組みにより、本計画の実効性を高めます。

(2) 取組の評価

1) 取組の評価の考え方

取組の評価指標は、テーマ別まちづくり方針の構成に応じて「市民満足度指標」「将来目標指標」「進捗管理指標」の3つの指標で整理します。

<まちづくりを評価する3つの指標>

	【指標】	何を確認するか	指標の性格と例示
方針	市民満足度指標	市民が「方針に示すまちになっている」と感じているかを確認	各テーマの総合的な達成状況を、 市民の実感 （アンケート）から把握
方針に基づく基本的な考え方	将来目標指標	各テーマの「方針に基づく基本的な考え方」が、将来的にどの程度実現しているかを確認	原則として アウトカム指標 （取組の結果として「社会や暮らしにどのような変化が生じたか」を示す指標） 例：災害リスクの低減、緑地面積の減少率の抑制、幹線道路の渋滞解消など
取組の柱	進捗管理指標	将来目標の実現に向けて具体的な取組がどの程度進んでいるかを確認	原則として アウトプット指標 （取組を「何を・どれだけ実施したか」を示す指標） 例：雨水貯留施設の整備量、都市公園の整備量、都市計画道路の整備量など
	進捗管理指標は、取組の柱とリンクするように、次の2つに分けて設定します。		
	【メイン指標】原則、都市計画部門が中心となって進捗管理を行う指標であり、目標値を設定して定期的に数値を確認		
	【サブ指標】他部門を含め方針の実現に関係が深いもの（間接的なものも含める）など継続的に確認すべき指標（なお、サブ指標には定量的な目標値は設けません）		

<評価の方法>

指標	目標値設定の考え方	評価の方法・データ取得頻度
市民満足度指標	・ 目標年次を 20 年後 として、市民の実感が現状よりも向上・改善していることを目標とする	・ 市民アンケートを実施 ・ 評価は中間時点の 10 年後とするが少なくとも 5 年ごとに確認する
将来目標指標	・ 目標年次を 20 年後 として、定めた指標が現状よりも向上・改善していることを目標とする	・ 指標の内容により、データの取得またはアンケートを実施 ・ 5 年ごとに達成状況を確認する
進捗管理指標	・ 5 年後に達成することを目指し て、定めた指標の具体的な目標値を設定する（メイン指標のみ）	・ メイン指標に定めた項目について毎年データを取得し、進捗状況を確認する
その他（個別の意見収集）	・ 都市マス策定時に行った「地域別サロン」の開催やデジタルツールの活用等により、継続的に個別の意見の収集機会を設ける ・ 特定のテーマに関連する方の意見を把握できるよう、対象者を限定したアンケート調査等の実施	

2) 各テーマの方針に対応した評価指標

上記の考え方を踏まえ、各テーマの方針に対応した評価指標を次頁以降に整理しました。

<テーマ「安全・安心」の評価指標>

〈方針〉

日常生活のなかで災害が発生しても、被害を最小限に留め、
素早く確実に復旧できる、防災・防犯ともに備えができています
安全・安心に暮らせるまちを目指します。

市民満足度指標

【安全・安心】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき
基本的な考え方〉

①災害に強い都市基盤を
整える

将来目標指標

防災上のリスクの
高い地域(※)の減少

【現況値】735.8 ha

※浸水深1m以上、土砂災害警戒区域及び
特別警戒区域、住宅密集地に該当するエリア

②災害が発生しても円滑に
復旧できる準備を整える

将来目標指標

災害時に閉塞しない主要生活道路
以上(※)の道路の割合の増加

【現況値】50.3 %

※主要生活道路以上とは、道路基本計画における
「幹線道路、補助幹線道路、主要生活道路」が該当

③日頃の暮らしから、災害・
犯罪・事故に備える

将来目標指標

「生活道路の安全確保」の
取組に対する満足度の向上

【現況値】31.8 %

※令和7年度市政モニターアンケートより

〈取組の柱〉

① 災害リスクの低減・回避

② インフラの強化

③ 災害に強い生活環境への
改善

進捗管理指標

【メイン】

雨水貯留施設の整備量①

【現況値】38,096 m³

【目標値】39,186 m³

【サブ】

- ・開発許可の件数①
- ・避難所等に接続する下水道
管路等の耐震化率②
- ・建築確認の件数③

④ 災害時の核となる
防災拠点の形成

⑤ 避難・救助しやすい
道づくり

⑥ 物資や人を運びやすい
道づくり

進捗管理指標

【メイン】

緊急輸送道路の整備延長

⑤・⑥

【現況値】17.59 km

【目標値】18 km

【サブ】

- ・地域防災拠点の箇所数④
- ・無電柱化の整備延長⑤・⑥

⑦ 日常から災害に備える
まちづくり

⑧ 犯罪や事故の芽を摘む
環境づくり

⑨ 共助の体制強化

進捗管理指標

【メイン】

道路照明灯の設置総数⑧

【現況値】4,034 本

【目標値】4,074 本

【サブ】

- ・災害時を考慮したベンチ（かま
どベンチなど）の導入件数⑦
- ・防犯カメラ及び防犯灯設置
補助金交付件数⑧
- ・自治会・町内会における
自主防災組織の結成率⑨

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

- ・朝霞市面積（1,834ha）の約4割が防
災上リスクの高い地域に含まれ、災害
リスクの低減・回避に向けた取組によ
り防災上のリスクの高い地域が減少す
ることは、被害を最小限に留めるこ
とにつながるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・内間木地域や河川沿いの低地部等の広
い範囲で浸水が想定されており、雨水
貯留施設の整備が河川氾濫の抑制や浸
水被害低減の効果が期待できるため

○将来目標指標

- ・都市計画道路や主要生活道路の整備に
より、道路閉塞が発生しないとされる
幅員8m以上の道路の割合が増えるこ
とは、災害時の円滑な救援・救護や復
旧につながるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・緊急輸送道路を優先的に整備すること
で、災害発生時に被災地への救援物資
や支援部隊の迅速な搬送が可能となり、
復旧活動のスピードアップにつながる。
整備延長を積み上げることで、将来目
標指標の道路の割合を押し上げるこ
とにつながるため

○将来目標指標

- ・生活道路の安全確保を進めることで、
災害時の避難のしやすさや、夜間を含
めた犯罪や事故の発生の抑制につな
がることが期待できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・道路や公共空間における適切な照度の
確保は犯罪や交通事故の発生抑制の効
果が期待できるため

<テーマ「自然環境」の評価指標>

〈方針〉

みどりのある朝霞らしい風景を守り、親しみ、
未来のこどもたちに胸を張って残せる持続可能な
自然豊かで環境にやさしいまちを目指します。

市民満足度指標

【自然・環境】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき
基本的な考え方〉

①持続可能な未来につながる
気候変動に対応する

将来目標指標

温室効果ガス排出量の削減
(2013年度比)

【現況値】23.2 %

※令和4年度における温室効果ガス削減率
(2013年度比)

②豊かな自然を育みつなぐ

将来目標指標

市内緑地面積の
減少率(※)の抑制

【現況値】0.27 %/年

※過去10年間の緑地面積の年間平均減少率
(H25→R5)

③朝霞らしい風景を
守り育てる

将来目標指標

景観の取組に対する
満足度の向上

【現況値】58.8 %

※令和6年度市民意識調査より

〈取組の柱〉

① 環境配慮の視点からも
選択できる移動手段の確保

② 環境にやさしい公共空間
の整備

③ 環境にやさしい住宅の
整備促進

④ 暮らしを支え豊かにする
みどりの保全・育成

⑤ みどりを支える仕組み
の強化

⑥ みどりのある暮らし
の実践

⑦ 協働による景観づくり

⑧ みずみずしい風景を生か
した自然環境への誘導

進捗管理指標

【メイン】

公共交通
(路線バス及び市内循環バス)
の年間利用者数①

【現況値】828.9 万人

【目標値】939.7 万人

【サブ】

・公共空間の緑被地面積②
・創エネ・省エネ設備設置費
補助金の件数③

進捗管理指標

【メイン】

特別緑地保全地区の
指定面積④

【現況値】2.1 ha

【目標値】2.7 ha

【サブ】

・都市公園の面積④
・緑化活動を行うボランティ
ア団体の団体数⑤
・みどりに触れ、楽しめる活
動実績数⑥

進捗管理指標

【メイン】

景観団体の活動実施数⑦

【現況値】33 件

【目標値】38 件

【サブ】

・景観づくり重点地区の
指定面積⑧

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

・環境に配慮した移動手段の確保や公共
空間、住宅の整備により温室効果ガス
排出量を削減することは、気候変動リ
スクを低減させることになり、持続可
能な未来の形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

・ゼロカーボンアクションの中で、まち
づくりの範囲内で直接取り組める内容
であるとともに、日本の温室効果ガス
排出において、「移動」に伴う排出割
合が大きいことから、公共交通の利用
者増加は、自動車利用の削減に直結し、
CO₂削減効果が期待できるため

○将来目標指標

・みどりの保全・育成により緑地面積を
維持・増加することは、「みどりのあ
る朝霞らしい風景」を守ることに関
与できるため
・近年、市内の緑地面積は減少傾向に
あり、その減少トレンドから回復でき
ているかどうかを評価することで、環
境保全の成果を定量的に把握できるため

○進捗管理指標【メイン】

・既存の緑地等を指定することは、緑地
等の保全・活用につながり、市内の緑
地面積の減少率の抑制に効果があると
期待されるため

○将来目標指標

・景観づくりの推進により市民の景観に
対する満足度が向上することは、朝霞
らしい風景が守られ、育てられている
と捉えられるため

○進捗管理指標【メイン】

・景観団体の活動の活発化は、朝霞ら
しい風景の維持・形成が期待でき、市民
の景観に対する満足度の向上につな
がるため

<テーマ「快適な移動」の評価指標>

〈方針〉

多様な移動手段でつながる、安全で快適な移動環境のある、
人にやさしい交通アクセスのよいまちを目指します。

市民満足度指標

【快適な移動】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき
基本的な考え方〉

① まちの骨格となる幹線道路
の交通流を円滑にする

将来目標指標

市内幹線道路の渋滞の解消

【現況値】混雑度 1.47
(市内最大値)

※令和3年度道路交通センサスより

② 身近な生活道路の安全を
守る

将来目標指標

市内交通事故発生件数の減少

【現況値】283 件

※令和6年時点(埼玉県警)

③ 自由な移動を支える

将来目標指標

公共交通利用圏域における
人口のカバー率の増加

【現況値】96.7 %

※令和2年国勢調査より

〈取組の柱〉

① 幹線道路の整備

② 既存道路の改良

③ 自転車で行きやすい
道づくり

④ 安全に生活できる身近な
道づくり

⑤ こどもの未来を守る
通学路づくり

⑥ 荷捌きと駐車場の適正化

⑦ どこに住んでいても
自由に移動できる多彩な
移動手段の充実

⑧ 人中心の歩きたくなる
道づくり

進捗管理指標

【メイン】

都市計画道路の整備率①

【現況値】54.1 %

【目標値】60.9 %

【サブ】

- ・交差点の改良件数②
- ・自転車通行空間の整備延長③

進捗管理指標

【メイン】

主要生活道路以上の
道路における歩道整備率④

【現況値】33.2 %

【目標値】33.9 %

【サブ】

- ・歩道橋の改修件数⑤
- ・放置自転車の件数⑥

進捗管理指標

【メイン】

市内循環バス及びわくわく
ワゴン等のルート数⑦

【現況値】6ルート

【目標値】6ルート

【サブ】

- ・シェアサイクルの年間貸出
回数⑦
- ・まちなかベンチの設置数⑧

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

- ・幹線道路の整備や既存道路の改良により市内幹線道路の渋滞が緩和されることは、安全で快適な移動環境のある、交通アクセスのよいまちの形成に貢献するため

○進捗管理指標【メイン】

- ・都市計画道路の整備は、幹線道路ネットワークの形成や既存道路の改良につながり、市内幹線道路の渋滞緩和の効果が期待できるため

○将来目標指標

- ・交通安全対策の推進により市内交通事故発生件数が減少することは、安全で快適な移動環境を創出し、人にやさしいまちの形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・歩道整備による歩行者の移動環境の確保は、人と車や自転車のすみわけにもつながり、交通事故発生抑制効果が期待できるため。なお、主要生活道路以上の道路のうち、計画幅員が8m以上の道路を対象とする

○将来目標指標

- ・公共交通の利用環境の充実により目的に応じた多様な移動手段が確保できることは、多様な移動手段でつながる交通アクセスのよいまちの形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・市内循環バスやわくわくワゴン等のルート数の維持は、公共交通利用圏域の人口カバー率の増加につながるため

<テーマ「にぎわい・活力」の評価指標>

〈方針〉

四季折々のイベントが充実し、笑顔が絶えないワクワクするまち、
鉄道駅や道路ネットワーク・地域資源を生かした
にぎわいと活力のあるまちを目指します。

市民満足度指標

【にぎわい・活力】の方針に示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき
基本的な考え方〉

①にぎわいと活力のある
駅前拠点をつくる

将来目標指標

朝霞駅及び北朝霞・朝霞台駅
周辺の歩行者通行量の増加

【現況値】今年度調査

②安心して産業活動ができる
環境を整える

将来目標指標

産業用地（商業用地及び工業用地）
の土地利用面積の増加

【現況値】189.1 ha

※令和3年度都市計画基礎調査より

③地域資源を生かして活力を
創出する

将来目標指標

市民参加型のまちの魅力づくりに
関するイベント・ワークショップ
等の年間実施件数の増加

【現況値】58 件

〈取組の柱〉

① 朝霞駅周辺の活気ある
まちづくり

② 北朝霞・朝霞台駅周辺の
活気あるまちづくり

③ 誰もが楽しく歩ける空間
の整備

進捗管理指標

【メイン】
都市機能誘導区域内の公共空間
で実施した官民連携による
イベント開催箇所数①・②

【現況値】9 箇所

【目標値】11 箇所

【サブ】

・朝霞駅、北朝霞・朝霞台駅
の年間乗降客数①・②
・誰もが楽しく歩ける空間整備③
(歩行者利便性道路及び滞在快適性等向上区域)

④ 工業系地域における居住
環境にも配慮した
生産環境の確保

⑤ 企業と市民で共につくる
地域経済の活性化

⑥ 立地特性を生かした戦略
的な産業の誘致・育成

進捗管理指標

【メイン】
産業系の土地利用を創出する
地区計画や土地区画整理事業
等の決定及び認可件数④・⑥

【現況値】5 件

【目標値】6 件

【サブ】

・企業との協定数⑤
・企業の誘致件数⑥

⑦ 自然環境や歴史・文化
資源を生かしたにぎわい
づくり

⑧ 潜在するポテンシャルを
生かした地域経済の
活性化

進捗管理指標

【メイン】
市民参加型のまちの
魅力づくりに関する
イベントの件数⑧

【現況値】48 件

【目標値】50 件

【サブ】

・自然環境・歴史・文化資源
を生かしたイベントの件数
⑦

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

・各駅周辺における活気あるまちづくりに
向けた取組を進めることにより、各
駅周辺の歩行者通行量を増加させる
ことは、にぎわいと活力のある駅前拠点
をつくることにつながるため

○進捗管理指標【メイン】

・都市機能誘導区域内での公共空間の活
用は、駅周辺の滞在者数の増加につな
がり、にぎわいと活力を生み、新たな
事業所が立地するポテンシャルが高ま
るため

○将来目標指標

・産業用地の土地利用面積を増加させ、
地域経済の活性化と持続的な発展を
図ることにより、企業が安心して事業展
開できる環境を整えることにつながる
ため

○進捗管理指標【メイン】

・地区計画や土地区画整理事業等による
産業系用地の創出は、都市基盤の整備
や産業立地を促し産業用地面積の増加
につながるため

○将来目標指標

・地域住民が主体的に参加し意見交換
する場が多いほど、地域資源を活用した
魅力的なまちづくりが進むことにつな
がるため

○進捗管理指標【メイン】

・市民を巻き込んだまちの魅力づくりの
支援は、イベント等の実施件数の増加
につながるため

<テーマ「私らしい暮らし」の評価指標>

〈方針〉

自然と利便性が共存するコンパクトな住宅都市であることを生かし、
私らしくいきいきと暮らせる、活躍できるまちを目指します。

市民満足度指標

【私らしい暮らし】の方針の示すまちになっていると感じる市民の割合の増加

〈方針に基づき
基本的な考え方〉

①市街地と自然をつなぐ、選
択肢のある住環境を整える

将来目標指標

ライフスタイルに応じた
住環境に対する満足度の増加

【現況値】 今年度調査

②暮らしを支える生活
サービスの質を高める

将来目標指標

生活サービス施設への
アクセシビリティ（利用しや
すさ）に対する満足度の向上

【現況値】 今年度調査

※生活サービス施設とは、商業、医療、福祉、子育て施設等該当

③私らしくいられる場や活躍
できる場をつくる

将来目標指標

市民幸福度の向上

【現況値】 6.4点/10点満点

※デジタル庁が示すウェルビーイング指標の
1つ（令和7年度の値）

〈取組の柱〉

① 歩きたくなる地域づくり

② 利便性と自然が調和した
ゆとりのある地域づくり

③ みどりに恵まれた
地域づくり

進捗管理指標

【メイン】
開発事業に伴う緑地確保の
指導に対する整備率②・③

【現況値】 100 %

【目標値】 100 %

【サブ】

- ・歩きたくなる空間整備①
（歩行者利便増進道路及び滞在快適
性等向上区域）（再掲）
- ・生産緑地の指定面積②

④ 市民全体の暮らしを
支える広域サービスの
確保・充実

⑤ 身近な生活サービスの
確保・充実

⑥ 既存の土地や建物を活用
した生活サービスの確保

進捗管理指標

【メイン】
生活サービス施設からの
徒歩圏（500m圏）
人口カバー率④・⑤

【現況値】 98.1 %

【目標値】 98.6 %

【サブ】

- ・空き店舗等リフォーム資金
の補助件数⑥

⑦ オープンスペースの創出
と利活用

⑧ 私らしく働く場、
活躍できる場の確保

⑨ 多様な主体の共創による
新たな価値の創出

進捗管理指標

【メイン】
商工関連イベントの実施件数
⑦・⑧

【現況値】 4件

【目標値】 4件

【サブ】

- ・インクルーシブに配慮した
公園の数⑦
- ・社会環境をリードする新た
な産業の育成支援の件数⑨

※進捗管理指標は、令和12年度を目標年度とする

※進捗管理指標の後の番号は取組の柱との関係性を提示

〈指標の設定理由〉

○将来目標指標

- ・自然と調和したゆとりある地域づくり
やみどりに恵まれた地域づくりにより
自然と調和した適正な土地利用に対す
る満足度が向上することは、自然と利
便性が共存するコンパクトな住宅都市
の形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・開発事業に伴う緑地確保の指導に対す
る整備率を維持することは、自然と調
和した住環境の形成につながるため

○将来目標指標

- ・生活サービス施設の確保・充実により
生活サービスへのアクセシビリティに
対する満足度が向上することは、利便
性の高い住宅都市の形成に貢献できる
ため

○進捗管理指標【メイン】

- ・都市機能の充実による生活サービス施
設からの徒歩圏人口カバー率の増加は、
生活に対する満足度に寄与するため
※都市計画部門だけでは取組を推進で
きないため、他部局と連携して推進する

○将来目標指標

- ・主観的指標（アンケート等）と客観的指
標（オープンデータ等）により算出され
る市民幸福度の割合が向上することは、
私らしくいきいきと暮らせる、活躍で
きるまちの形成に貢献できるため

○進捗管理指標【メイン】

- ・官民連携による取組を継続していくこ
とは、まちの魅力向上だけでなく、市
民の愛着向上に寄与することが期待さ
れるため
- ・商工関連イベントは、市民が主体と
なって実現しており、現在実施してい
る4件のイベントも関係者の努力で継
続されていることから、担い手の確保
や機運醸成への市の支援が重要である

(3) まちづくり手法の持続的な深化

現在の区域区分や用途地域、都市計画事業など、本市が直接行ってきた様々な規制・誘導手法に加え、市民等による自主的なまちづくりを支える手法として、市民による主体的なまちづくりへの支援のための手法を継続的に検討し深化させるため、年1回程度、まちづくりに関連する条例等について庁内で検討します。

(4) 取組の進行管理

1) 継続的改善の考え方

本計画は、第6次朝霞市総合計画等の上位計画に即しつつ、概ね20年後の将来像を見据えた計画としていますが、計画期間内において、社会及び経済状況が大きく変化していくことも大いに予想されます。

そのため、本計画に位置づけられた取組については、PDCA サイクル（Plan「計画の策定（改定）」⇒Do「施策の実施」⇒Check「検証」⇒Action「事業・施策の見直し」）のもと、継続的改善を行っていきます。



2) 取組の進行管理体制

本計画策定後は、2つの会議体「都市計画審議会」及び「庁内検討委員会」を活用し、進行管理を行います。また、その結果を市民と共有することを目的に、イベント等と合わせて本計画の進捗や成果を市民と共有する場を設けます。

■まちづくりの評価体制

	委員構成	目的
都市計画審議会	外部有識者 市内関係者 公募市民等	・取組の進捗状況の報告（透明性の確保） ・取組への委員意見の反映（客観性の確保）
庁内検討委員会	市関係部署	・取組の実施に向けた協議調整（庁内調整）
市民と共有する場	—	・取組の進捗や成果を広く市民に共有する（市民への周知とPR）

策定までのスケジュール（案）

	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
会議体 ・都市計画審議会（★） ・庁内検討委員会（●）	★ (7/28) 【議題】 ・5つの地域の違いの表現 ・評価指標の検討 ・今後のスケジュール			● (中旬) 【議題】 ・市民コメントを踏まえた対応の確認 ・冊子デザインの確認	★ (上旬)	完成・公表
市民コメント			↔ 市民コメント (1 か月)			
本編の内容調整		↔ 都計審のご意見の反映 + 庁内調整		↔ 市民コメントの意見反映 + 庁内調整	↔ 冊子の 最終調整	

■5つの地域の違いの表現について

ご意見	市の方針
（森部委員） ・地域の範囲がより市民にとってわかりやすくなるように、位置図に小学校だけでも表現してほしい。 ・基本的には修正案の見せ方で問題ない。	・位置図に小学校を追加して表現した。
（鈴木委員） ・この形で問題ないが、前回示されたマトリックスの表を使わないことにした理由をはっきりと示すこと。	・ご指摘を踏まえ、前回から表現を変更した理由として、前回調整会議で頂いた意見に対する市の認識と対応策を追記した。
（大貫委員） ・大枠はまとまっていてよい。 ・内間木地域の特徴【1】の表現がわかりにくいため、表現を見直しすること。例えば、「地域のほぼ全域が浸水想定区域に含まれており、内水・外水いずれの水害に対しても被害発生リスクが高い地域です」としてはどうか。 ・特徴【2】では「みどりが残っている」だけでなく、「みどりが減少していること」も明記してほしい。 ・導入部分の文章がわかりづらい。	・内間木地域の特徴について、【1】の表現はご提案頂いた内容を参考に見直した。【2】は、みどりは減少しているものの他の地域に比べ減少量は小さく微減であることから「減少している」との表現ではなく、「豊かな自然を有している」の表現のままとした。 ・導入部分の文章については、ご意見を参考に、記載内容の修正を行った。

■評価指標について

【全体に対して】

ご意見	市の方針
（森部委員） ・全体的にはこの形での整理で問題ない。 ・「将来目標指標と進捗管理指標の設定の考え方」も冊子に入れてもらいたい。 ・「評価指標」の設定理由も冊子に表現してもらいたい。 ・各指標が何年後を目標にした指標なのかがわかりやすく表現してもらいたい。 ・縦軸の指標であるということを矢印等を用いて視線誘導できるとよりわかりやすくなる。	・「将来目標指標と進捗管理指標の設定の考え方」も冊子に表現できるよう調整する。 ・「評価指標」の設定理由について、将来目標指標と進捗管理指標【メイン】は指標のページに表現するが、それ以外の指標の設定の考え方は、冊子最後の巻末資料に追加する。 ・指標の目標年次については、3つの指標の説明の中で強調して整理した。 ・各指標間のつながりやまとまりがわかりやすくなるよう、表現を見直した。
（鈴木委員） ・「将来目標指標」の目標値も示せないか。現況値のみではわかりづらい。朝霞市がどこを目指していて、どこまで到達できているのか、現在地がわかるようにしたい。 ・指標の設定理由も冊子に記載してほしい。 ・難しい用語もあるので、用語集で補完してもらいたい	・20年後の目標値の設定は、経済・社会動向など都市計画以外の要素にも左右され、見通しが立たないことから現時点で設定することは難しい。 ・評価指標の設定理由を追記するとともに、難しい単語については巻末の用語集に追加する。
（大貫委員） ・指標の説明部分と各テーマの指標部分を対比して確認できるよう、表現を工夫してもらいたい。 ・進捗管理指標の【メイン】と【サブ】の違いが明確になるよう、【メイン】指標の文字に色を付けるなど表現を工夫してほしい。 ・「サブ指標」の考え方に直接的に関係するものだけでなく、間接的に関係するものも記載していることを明記してほしい。 ・「サブ指標」の設定理由も冊子の資料編でも良いので載せてもらいたい。	・説明部分と指標部分の色の濃淡を統一させるなど、対比して確認できるよう表現を見直した。 ・進捗管理指標の【メイン】と【サブ】の違いが明確になるよう、【メイン】指標の文字を色付けした。 ・「サブ指標」の考え方に、「間接的に関係するものも含まれていること」を追記した。 ・指標の設定理由は「サブ指標」を含めて、冊子の巻末資料に整理することとした。

■評価指標について

【安全・安心】

ご意見	市の方針
（鈴木委員） ○基本的な考え方❶の将来目標指標について ・防災上リスクの高い地域の現況値「735.8ha」の母数として、朝霞市面積「1,834ha」を示すことで、朝霞市の約半分が高リスクの地域であることが理解できる。	・ご指摘いただいた内容を、指標の設定理由に、朝霞市面積と比較した文言を追記した。
（大貫委員） ○基本的な考え方❶の「進捗管理指標【サブ】：避難所等に接続する下水道管路等の耐震化率」について ・避難所に接続する下水道に限定した理由はなにか。 ・目的からすると上水道も含めて耐震化率を示した方が良いのではないか。	・下水道管路等の耐震化の優先度として、災害時の避難先でも下水道が使える状態にすることが、快適な避難生活につながる考えたため。 ・上水道管路の耐震化はほぼ完了しているため、下水道管路のみの指標に設定した。
（大貫委員） ○基本的な考え方❷の「進捗管理指標【メイン】：緊急輸送道路の整備実施延長」について ・将来目標指標が主要生活道路以上の割合なので、集計可能であれば、「新規開通と拡幅改修された道路の延長」などとするのが望ましくないか。	・災害時に閉塞しない道路確保の優先度として、まずは災害時の避難や救助・救援、復旧・復興において重要性が高い「緊急輸送道路」から整備していくことが望ましいと考え、今後5年の進捗指標としては緊急輸送道路に限定したものとした。
（浪江委員） ○基本的な考え方❷の「進捗管理指標【サブ】：無電柱化の整備延長」について ・市全体を対象にすると市は経済破綻する。まずは人が集まる場所（例：都市機能誘導区域等）を優先して行う計画にした方が良いのではないか。	・無電柱化推進計画により、防災性や景観の向上などを目的に整備の優先度を設定し取り組んでいる。そのため、都市機能誘導区域に限らず計画に沿った進捗管理を行っていくため、そのままの記述とした。
（鈴木委員・大貫委員） ○基本的な考え方❸の将来目標指標について ・市政モニターアンケートがどういう調査なのかがわからない。 ・この指標が市政モニターアンケートでよいのか。空き巣、窃盗、痴漢などの犯罪率等ではどうか。	・ご指摘いただいた用語に限らず、わかりづらい用語に対しては巻末の用語集にて解説を記載する。 ・ご意見いただいた指標の設定も検討できるが、進捗管理指標とのつながりを意識し、防犯・防災の両方を評価できる指標が望ましいと考え、指標はそのままとした。
（鈴木委員） ○基本的な考え方❸の「進捗管理指標【サブ】：災害時を考慮したベンチの導入件数」について ・どのようなベンチなのかがわかるよう「かまどベンチ」と具体的に例示してほしい。 ・災害時を考慮したベンチの導入件数「18基」は、指定避難場所及び防災公園の数を母数として、そのうち何箇所に展開済みかを指標とした方がよい。	・ご指摘を踏まえ、ベンチの例示として「(かまどベンチなど)」を追記した。 ・資料3の評価指標の設定理由において、現況値の下に災害時を考慮したベンチが設置されている公園の個所数を追記した。
（鈴木委員・高橋委員・神谷委員） ○基本的な考え方❸の「進捗管理指標【サブ】：自主防災組織の結成率」について ・何を母数とした数値なのかを明確に示してほしい。 ・町内会だと町内会に属してなく自主防災組織だけ作っているケースもあり、自治会・町内会のみであることを記載してほしい。	・ご指摘を踏まえ、「自治会・町内会における」を追記し、自治会・町内会への加入率を追記した。

■評価指標について

【自然・環境】

ご意見	市の方針
（鈴木委員） ○基本的な考え方❶の将来目標指標について ・基本的な考え方に対しての温室効果ガス排出量の抑制の「現況値〇〇千トン」は、2030 年度に 46%削減（2013 年度比）に対応するもので、その数値を母数として示すことで、ここまで進んでいるということが理解できる。 ・現況値で示す数値は排出量なのか、排出抑制値なのか。	・ご指摘を踏まえ、資料 3 の評価指標の設定理由の欄に、本市の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容を追記した。 ・指標の記載を「温室効果ガス排出量の削減（2013 年度比）」と修正し、2013 年度比でどの程度温室効果ガスが削減されているかがわかる指標とした。
（森部委員・浪江委員・神谷委員） ○基本的な考え方❶の「進捗管理指標【メイン】：公共交通の年間利用者数」について ・わかりづらい。ガソリンを使わない乗り物を増やす方が指標として適切ではないか。 ・快適な移動の指標としては適切だが、このテーマであればガソリンの使用量を減らすか、吸収するかではないか。 ・将来目標指標とのつながりがわかりづらい。	・ご指摘の内容は理解するが、都市計画部門で責任をもって管理できる指標であることから、指標はそのままとした。
（大貫委員・浪江委員） ○基本的な考え方❶の「進捗管理指標【サブ】：緑地面積」について ・基本的な考え方❷の将来目標指標に「緑地面積」に関する指標が設定されているが、ここで「緑地面積」をサブ指標として設定することは矛盾しないか。 ・緑地はなぜ減っているのか。その理由に対して指標を設定した方が良いのではないか。ただ農地については個人資産であることもあり対策が難しいことは理解する。	・みどりの量を示す「緑被地面積」に表現を見直した。「緑被地面積」は温室効果ガスの吸収源であるみどりを公共的空間に増やしていくことを目的としているため、それが明確になるよう「公共的空間の緑被地面積」とみどりの範囲を限定した表現に修正した。 ・緑地の減少理由は農地の宅地化が最も多く、土地の相続も関係するなど個人資産の取扱いとなるため、指標としての設定は難しい。
（大貫委員・神谷委員） ○基本的な考え方❷の「進捗管理指標【サブ】：緑化活動を行うボランティア団体の団体数」について ・ボランティアとイベントについては、団体の登録メンバー数、イベント参加数の方がより精度が高くないか。 ・団体数が「将来目標指標」に直接関与してこないのわかりづらい。	・色々な趣旨・目的で活動している団体が多くなることの方がより将来目標指標の達成に寄与することができると考え設定した。 ・取組の柱⑤・⑥に対して関与していくことで、結果的に「将来目標指標」の達成に寄与するものと考え設定した。
（高橋委員） ○基本的な考え方❷の「進捗管理指標【サブ】：みどりに触れ、楽しめる活動実績数」について ・ここに「にんじん」を推した指標を設定できないだろうか。朝霞と言えは歴史的にみても「にんじん」が最も関わりがあるものとなる。	・「進捗管理指標」の設定理由に「にんじんの収穫体験など」と例示する形で表現した。
（大貫委員） ○基本的な考え方❸の将来目標指標について ・進捗管理指標【サブ】で設定している「景観づくり重点地区の指定面積」を将来目標指標に設定してはどうか。	・「景観づくり重点地区の指定」は朝霞らしい風景を守り育てる取組の 1 つであるが、将来目標指標は様々な取組を展開する効果を測ることができる指標が望ましいと考え、進捗管理指標はそのままとした。
（大貫委員） ○基本的な考え方❸の「進捗管理指標【サブ】：景観づくり重点地区の指定面積」について ・生垣設置補助の件数とするのはどうか。	・宅地における生垣の設置も景観づくりに有効であるが、市内の既存の自然環境を保全・育成していくことの方が、取組の柱⑧の趣旨とリンクしており、優先度が高いと判断し、指標はそのままとした。

■評価指標について

【快適な移動】

ご意見	市の方針
（鈴木委員） ○基本的な考え方❶の将来目標指標について ・「道路センサス」がわからないので、補足を追記してもらいたい。	・ご指摘いただいた用語に限らず、わかりづらい用語に対しては巻末の用語集にて解説を記載する。
（鈴木委員） ○基本的な考え方❶の「進捗管理指標【サブ】：自転車通行空間の整備延長」について ・道路交通法が変わり、車で自転車を追い抜くためには側方 1 m 離れた状態で抜くことが求められる。それに対応した整備ではないことを示した方が良いのではないか。誤解を招かないように表現を工夫してほしい。 ・自転車通行空間の整備を検討している道路の総延長を記載してほしい。	・ご指摘を踏まえ、新しい道路交通規制を対象とはしていないことを追記した。 ・また、整備を検討している道路の総延長については、道路整備基本計画の体系別の整備水準の中で自転車通行帯の整備を検討するとしており、幹線道路（市道）の総延長について追記した。

■評価指標について

【快適な移動】

ご意見	市の方針
（大貫委員・浪江委員・鈴木委員） ○基本的な考え方㊦の「進捗管理指標【メイン】：市内循環バス及びわくわく号等のルート数」について ・わくわく号のルート数ではなく、ルートの合計延長距離としてはどうか。 ・市内循環バスとわくわく号は同じことなので、表現を工夫してほしい。 ・ループなど新しいモビリティを入れる計画はないのか。また、地域公共交通計画に広域化と記載があるので、例えば和光市と連携して市の端についてはルートを増やすことでルート数を増やせないのか。 ・路線バスを含めたルート数が進捗管理指標としては適切ではないか。市内循環バスのルートが増えても、路線バスが撤退してしまえば、移動の自由は総合的に損なわれてしまう。	・公共交通空白地区の解消や利便性の向上の観点では、ルートの延長により解決できることもあるが、一方で営業経費の上昇や運行頻度の低下などの別の問題も発生してくるため、ルート数を維持することを目標として設定した。 ・また、ルートによって同ルートを通る場合もあるので、ルートの合計延長距離よりもルート数の方が適切であると考えた。 ・「LUUP（ループ）」等の新たなモビリティの導入については、事故等の発生リスクを踏まえ、現時点では検討に至っていない。 ・隣接市を含めた広域化は、運行距離が長くなり、運行本数が減ってしまうことが懸念されるため、慎重に検討したい。 ・路線バスの運行は、民間事業者に委ねるところが大きいいため、都市計画部門が責任をもって管理できる「市内循環バス及びわくわくワゴン等」に限定したルート数を設定している。しかし、ご指摘のとおり路線バスの廃止は移動の自由の低下につながることから、バス事業者と連携しながらバス路線の維持に努める。
（大貫委員） ○基本的な考え方㊦の「進捗管理指標【サブ】：人中心の歩きたくなる道」について ・歩きたくなる道に対する指標が設定されていない。例えば、道路のバリアフリー改良延長とするのはどうか。	・道路のバリアフリー改良延長については、市で把握することは難しい。ここでは、都市計画部門で設置し、休憩場所やランドマークにもなり歩くきっかけづくりにつながる「ベンチ」を指標とした。 ・なお、道路整備においてはバリアフリーに配慮しつつ道路築造、整備を進めている。

■評価指標について

【にぎわい・活力】

ご意見	市の方針
（浪江委員・鈴木委員） ○基本的な考え方㊦の将来目標指標について ・北朝霞・朝霞台駅周辺の歩行者交通量については駅間乗り換えの比率が多いことから、計測に乗り換え利用者は含めないよう工夫してほしい。	・歩行者の通行量や滞留量を測る場所については、乗り換え場所を避けて計測できるよう配慮する。
（浪江委員） ○基本的な考え方㊦の「進捗管理指標【メイン】：都市機能誘導区域内で実施した公共空間における官民連携によるイベント開催箇所数」について ・「地価」は指標にならないか。	・地価も指標になり得るが、景気や金融環境などの経済的要因が大きく影響するため、都市計画部門の取組の進捗評価には適さないと判断し、指標はそのままとした。
（浪江委員） ○基本的な考え方㊦の「進捗管理指標【サブ】：朝霞駅、北朝霞・朝霞台駅の年間乗降客数」について ・乗換利用者が数値に入ってしまうので指標としてなり得ないのではないか。そもそもアウトプットとして市では対策の打ちようがない。	・乗降者数を増やす施策として朝霞台駅の駅前広場、自由通路等、周辺環境の整備や北朝霞駅西口ロータリーの改修、鉄道事業者と協力したバリアフリー化やユニバーサルデザイン化、駅周辺をウォーカブルな空間として整備、駅へ行くための交通手段の拡充など駅利用者を増やす施策を市としても取り組んでいる。また、朝霞市内の駅や駅周辺が市民・来訪者に利用されている状況を把握する指標の一つとして有効であると考えている。
（森部委員） ○基本的な考え方㊦の「進捗管理指標【メイン】：産業系の土地利用を創出する土地区画整理事業の事業数」について ・事業数が1件増えることでどのような影響があるのか、詳しく説明を載せてほしい。	・巻末資料で土地区画整理事業、地区計画についても説明を載せることで対応した。 ・指標の計測方法を明確にするため、「産業系の土地利用を創出する地区計画や土地区画整理事業等の決定及び認可件数」に表現を見直した。

■評価指標について

【私らしい暮らし】

ご意見	市の方針
（大貫委員） ○基本的な考え方❶の将来目標指標について ・基本的な考え方が「市街地と自然をつなぐ選択肢のある住環境」とあるので、市街地内の緑地面積を指標として設定してはどうか。市街地内に一定のみどりがあることが3つの取組の柱にも関連してくると思う。	・市街地内の緑地面積も住環境において重要であるが、ここではライフスタイルに応じた選択肢のある住環境の確保を目的としており、その達成状況を測る指標としては既存の指標が適切と判断した。
（鈴木委員） ○基本的な考え方❶・❷の進捗管理指標について ・進捗管理指標として現況でほぼ100%になっているものを設定することの意味を明確にしてほしい。「100%を維持することがどれだけ難しいことなのか」など。	・ご指摘を踏まえ、資料3の評価指標の設定理由に100%を維持することの難しさを追記した。
（浪江委員・大貫委員） ○基本的な考え方❷の将来目標指標について ・生活サービス施設とは何を指すのか。 ・進捗管理指標【メイン】で示されている指標が、将来目標指標として適切ではないか。	・生活サービス施設とは、立地適正化計画において「商業施設、医療施設、福祉施設、子育て支援施設」として位置付けており、注釈として追記した。 ・ご指摘のとおり、進捗管理指標【メイン】は将来目標指標になり得る指標ではあるが、取組の柱④と⑤の取組の進捗を測る定量的な指標として別の指標の設定が困難であることから、将来目標指標と進捗管理指標【メイン】の指標はそのままとした。
（大貫委員） ○基本的な考え方❷の「進捗管理指標【メイン】：生活サービス施設からの徒歩圏力比率」について ・商業、飲食、サービス施設の新規開店件数などがわかればそれが良い。	・新規開店件数は市の方で把握することが難しい。また、朝霞市の生活サービスの確保について、都市機能誘導区域内の都市機能の充実に加え、徒歩圏内の施設を確保し生活利便性を確保することを目的としており、ご提案頂いた指標ではその効果を測ることは難しい。
（大貫委員） ○基本的な考え方❷の「進捗管理指標【サブ】：生活満足度」について ・生活満足度は、基本的な考え方❸の将来目標指標なので、サブでいれるのは矛盾がある。	・ご指摘を踏まえ、指標から削除することとした。
（鈴木委員） ○基本的な考え方❷の「進捗管理指標【サブ】：空き店舗補助金の交付件数」について ・現状値が“0”という数字が指標になり得るのか。	・令和7年度の実績では“0”となっているが、これまでに交付実績が存在するため、指標になり得ると判断した。
（浪江委員） ○基本的な考え方❸の将来目標指標について ・ウェルビーイング指標とは何の指標がちゃんと分析しているのか。	・デジタル庁の情報等を基にどのようなプロセスで設定されている指標なのかは把握している。 ・他都市との比較や継続的なモニタリングをするために、デジタル庁で公表している指標をそのまま活用している。
（大貫委員） ○基本的な考え方❸の進捗管理指標について ・DE&I（多様性、公平性、包括性を組み合わせた概念）に関する指標や就労、市民活動に関する指標があると良いと思う。	・ご指摘の内容は重要な観点ではあるが、指標としての設定が難しい。一方で、DE&Iの概念は既存の指標においても考慮されていると考える。
（鈴木委員） ○基本的な考え方❸の「進捗管理指標【メイン】：商工関連イベントの実施件数」について ・4件を維持することがどれだけ大変なことを設定理由に示してほしい。 ・「彩夏祭」が管理項目から外れていることは違和感がある。市民目線でも最大のイベントであり、管理項目に含めるべきではないか。	・ご指摘を踏まえ、指標設定理由を更新した。 ・官民連携による取組を継続していくことは、まちの魅力向上だけでなく、市民の愛着向上に寄与することが期待される。商工関連のイベントは、市民が主体となって実施しており、担い手の確保や機運醸成に市としても協力していくことが重要である。 ・彩夏祭は、【にぎわい・活力】の基本的な考え方❶の進捗管理指標のメイン指標として、また基本的な考え方❸の将来目標指標や進捗管理指標のメイン指標で考慮している。
（高橋委員） ○基本的な考え方❸の「進捗管理指標【サブ】：インクルーシブ遊具」について ・インクルーシブの観点はこれからの街づくりにおいて重要なキーワードである。	・インクルーシブのキーワードは残しつつ、遊具だけでなく、インクルーシブに考慮した公園整備を進めていくことが誰にとっても有効であると考え、遊具に限定せず、「インクルーシブに考慮した公園の数」に見直した。

■第5章の構成について

ご意見	市の方針
（田辺委員） ・第5章の構成を以下の流れに再整理した方が、わかりやすい。 「多様な主体との協働」 ➡ 「それを進めるための手法の改善」 ➡ 「市の取り組み」 ➡ 「評価と進行管理」 ・「評価と進行管理」の中に、新たに「まちづくり手法の持続的深化」の項目を設定し、市民による主体的なまちづくりへの支援のための手法を持続的に検討し、深化させる取組を明記してもらいたい。	・ご指摘を踏まえ、第5章の構成を見直した。

調整会議当日資料に対するご意見とその対応

○全体

ご意見	対応
(森部委員) ・ 前回の調整会議では、須永会長から「行政として責任を持って進行管理（PDCA）ができる範囲に絞るべき」という極めて的確な実務上のアドバイスがあり、まちづくり推進課の皆様もその方針に沿って厳格に指標を絞り込まれた経緯があると認識しております。この実務的な判断は、大変理にかなっており、深く敬意を表します。ありがとうございます。 ・ 一方で、他の委員の方々から「市民にとっては担当部署がどこであれ、朝霞市のまちづくりに必要不可欠な項目であれば、部局の枠を超えて包括的に掲げてほしい」という声が上がったのも、東部地域で暮らすいち主婦・一市民として非常に共感できる率直な気持ちです。 ・ 他の委員の皆様からもすでにご意見があったかと思いますが、内容が重複していることはご容赦ください。 ・ これら双方の正しい視点を、お互いの良さを活かしたまま、以下のような基本原則で整理整頓していただけたらなと思っています。 【原則１】「将来目標（成果）」と「進捗管理（活動）」の明白なペア化 まず、将来目標（成果）に対する進捗管理指標（活動）が明確なペアになっているか、明白な因果関係が一目でわかるかの確認をお願いしたいです。 類似した指標がいくつか並び、市民から見て「結局、どれが一番大事なの？」と視点がボケてしまうのを防ぐため、「この活動を積み重ねるから、この未来に繋がる」というストーリーが、どの市民が見ても一目で分かるように結びついている項目への見直しをお願いしたいです。 【原則２】進捗管理指標の二層構造化（メインとサブの切り分け） 上記を踏まえ、将来目標に対する進捗管理指標が複数存在する場合や、他部署の管轄になる重要施策がある場合は、進捗管理指標を【メイン】と【サブ】に切り分けて位置付けただろうかと思いました。これは、「自局で直接管理できるメインの指標を1つにする」という意味です。 ●【主担当指標】（自局で管理するメインの指標：原則1つ）まちづくり推進課が直接管轄し、自ら進捗の責任を持って管理する積極的な指標。 ●【関連・参照指標】（他部署から数字を持ってくるサブの指標）2つ目以降の複数候補や、所管が他部局（危機管理課等）にあるものの、市民ニーズが極めて高い施策（例：防犯カメラ設置数や耐震改修補助件数など）。これらは事務局が進捗の責任を背負うのではなく、他部署の既存データを共有してもらい、本プランに「参照」として紐付ける形で設置したらいかがでしょうか。 ・ まとめとして、この「まず将来目標指標と進捗管理指標の因果関係を明白に整える」、その上で「進捗管理指標の2つ目や他部署のものは関連・参照に回す」という整理を行えば、行政側の業務負担（他部署への過度な調整コスト）を増やすことなく、市民にとっても「朝霞市が一体となって安全・安心・快適なまちづくりを進めているストーリー」が迷わず一目で理解できるようになるのではないかと考えました。	・ ご指摘を踏まえ、【原則１】及び【原則２】を基本原則として指標の整理を行う。 ・ 【原則１】に対しては、これまでもつながりを意識して指標を設定しているものの、そのつながりがより伝わるような指標の設定、その説明を整理する。 ・ 【原則２】に対しては、都市計画部門として責任をもってモニタリングする指標（メイン）と、基本的な考え方の達成に向けた市民ニーズが極めて高い施策（サブ）の両方を明示する。定量的な目標値の設定は、メインのみとする。
(森部委員) ・ また、今後の進行管理のベースとなる「5年ごとの2,000人規模の市民アンケート」について、一人の生活者、そして地域代表の目線からの意見というかお願いがあります。 街全体のざっくりとした満足度を測るには2,000人という数字で足りるのかもしれませんが。しかし、例えば「東部地域など、そのエリア特有の困りごと」や、「子育て世帯、高齢の方、シェアサイクルを使っている人など、特定の人にしか分からないテーマ」になると、2,000人の中にはほんの数人しか該当者がいなくなってしまうのではないかと思います。これでは、本当に困っている人の貴重な声がデータに埋もれて消えてしまうリスクがとても高いと感じます。 ・ せっかくの市民の声をこれからの街づくりにしっかり活かすために、全員向けの大きなアンケートとは別に、特定の人へのアンケートも実施していただければと思います。例えば ●LINEなどのデジタルツールを活用した、特定の地域やテーマ（子育て・交通など）に絞った臨時のミニアンケートの実施 ●該当する市民が集まる場所（児童館、公民館、駅前の広場など）にQRコードを掲示し、その場のお客さんにダイレクトに意見を聞く調査の実施 など ・ 一部分だけのデータではなく、本当に困っている市民の生の声をしっかり集めて、信頼できる形での進行管理体制を作っていただきたいです。	・ 特定のテーマに関連する方の意見を把握できるよう、対象者を限定したアンケート調査等を実施するとともに、データに現れる結果や市民全体の傾向だけでなく地域固有の課題や特定の市民が関係する課題についても把握し対応できるように、継続的に市民の皆さまとの対話の機会を設ける。
(松村委員) ・ 資料2「評価指標の見直し…」に関し、①なぜ「指標」が「目標」になるのか、②『「進捗管理指標」が「将来目標指標」などを「押し上げる』』との記述があるが、これはどのような意味なのかなど、資料全体を通じて、良く分かりません。 ・ これは、私が都市計画分野の評価体系になじみがないうえ、これまでの審議全てに参加できていないためだと思いますが、市民の方にも似たような方がいらっしゃるかもしれません。都市マス公開・広報に当たっては、都市マスの実施・受け手主役である市民の方々のご理解・ご協力を得るため、市側の丁寧な説明が必要と思います	・ ①について、各テーマの方針に対して、その実現に向けた基本的な考え方を3つ設定している。将来目標指標は、その基本的な考え方を20年後の目標として捉え、その目標が達成できているかを測る指標として設定している。 ・ ②「進捗管理指標」で管理する取組を進めることが「将来目標指標」の向上に貢献するような関係になっているかどうかを意識すべき、という趣旨の委員意見のなかで「押し上げる」という表現が使われたものであり、趣旨を変えない範囲で理解しやすい言葉に見直す。
(田辺委員) ・ 各テーマの取組の柱ごとに進捗管理指標を設定し、定期的にモニタリングするべきではないか。	・ ご指摘を踏まえ、どの取組の柱も進捗管理指標の「メイン指標」か「サブ指標」のいずれかに該当するように、メイン指標とサブ指標の組み合わせを考慮する。

○テーマ【安全・安心】

項目		ご意見	対応
基本的な考え方❶	将来目標指標	（森部委員） ・東部地域に暮らす一人の生活者として「災害リスクの高い地域の減少」という目標には深く共感します。 ・一方で、河川氾濫（浸水深1m以上等）や土砂災害警戒区域等の法的指定エリアは、市単独のハード整備での解消が難しいかと思います。 ・そのため、インフラ整備のみに依存せず、住民の避難行動を円滑化するソフト対策など、まちづくり推進課が直接誘導・コントロール可能なアウトカム指標への見直しというか補足が必要なのかなと思いました。 （浪江委員／調整会議での意見） ・防災リスクの高い地域の減少の意味がわからない。災害リスクの高いエリアから低いエリアへの居住人口を移動させることをするべきではないか。	・基本的な考え方の役割分担として、ハード対策は基本的な考え方❶、ソフト的な部分は考え方❸として整理し、❸のサブ指標にソフト対策の指標（自主防災組織）を設けている。 ・基本的考え方❶では、災害に強い都市基盤を整えることを目的に、災害リスクのある地域の解消やインフラの更新等のハード施策を対象としている。
	進捗管理指標	（森部委員） ・他の委員の方からもご意見あったかと思いますが、「住宅密集地における建築確認の件数」の設定について、これは民間の自発的な建替え需要（社会経済情勢）に左右される受動的な指標であり、行政側の誘導効果や施策の進捗を測る物差しとしては不十分だと感じました。計画の実効性を担保するためには、密集地内での「不燃化リフォーム・耐震改修への補助金交付件数」や「開発許可における防災貢献型案件の件数」など、市の施策効果がダイレクトに反映される能動的な指標へ変更した方がいいのかなと思いました。 （浪江委員） ・再開発コストが上昇する中、民間任せでは災害に強い都市基盤の整備が遅れる懸念がある。特に旧耐震の老朽中小ビルについては、倒壊による直接的な被害や道路寸断による救助・復旧活動等への影響も懸念されるため、例えば、都市機能誘導区域における当該ビルの更新率（除却・建替え・耐震化）を加えてはどうか。 （神谷委員／調整会議での意見） ・建築確認の件数について、市が能動的に働きかけて増やすことができるのか。他人が行っているものを管理するより、市が能動的に行ったものを指標にする方が良いのではないか。	・ご指摘を踏まえ、基本的な考え方❶に対する進捗管理指標として、【メイン】は都市計画部門が管理できる「雨水貯留施設の整備量」を設定する。【サブ】では各取組の柱に対応して、「開発許可の件数（取組の柱①）」、「避難所等に接続する下水道管路等の耐震化率（取組の柱②）」、「建築確認の件数（取組の柱③）」をモニタリングすることとした。 ・ご指摘はそのとおりである。しかし老朽中小ビルの更新率は行政計画においてはアウトカム指標と考えているため見送りとさせていただいた。メイン指標としては朝霞市の主要な災害リスクである水災害に直接結びきやすい「雨水貯留施設の整備量」を設定した。 ・ご指摘を踏まえ、基本的な考え方❶に対する進捗管理指標として、【メイン】は都市計画部門が管理できる「雨水貯留施設の整備量」を設定する。【サブ】では各取組の柱に対応して、「開発許可の件数（取組の柱①）」、「避難所等に接続する下水道管路等の耐震化率（取組の柱②）」、「建築確認の件数（取組の柱③）」をモニタリングすることとした。
	その他	（松村委員） ・その他の指標候補案に「自然災害による死者数ゼロ」とあるが、事故災害を特に除外した理由はあるのか。地域防災計画では、事故災害を含めた計画だったように思うが、都市計画サイドでの対応策は限定的なので除外したということか。	・基本的な考え方❶では自然災害を対象にしており、事故に関しては考え方❸での対応と区分している。 ・地域防災計画に記載されている事故の対象は、大規模事故（鉄道、飛行機、ガス、毒物）を想定しており、市で防ぐものは限られる。
基本的な考え方❷	将来目標指標	（浪江委員） ・「計画どおりに整備された」とあるが、目標年次となる 20 年後は、現在と事業環境や災害リスク、都市・住宅の開発状況等も大きく変容している可能性があるため、「計画どおり」と固定化してしまうことによるリスクはないか。一定の柔軟性を認めるのであれば、「計画どおり」は不要ではないか。 ・緊急輸送道路の整備を進めること（＝整備率の増加）はアウトプットではないか。 ・円滑に復旧する要素が緊急輸送道路整備のみであることに違和感。レジリエンス向上という趣旨であれば、災害時におけるライフライン等の想定復旧日数や救援物資・人員の受入までにかかる期間短縮、BCM・BCP の策定率向上などが適切ではないか。 （田中委員） ・「災害は発生しても円滑に復旧できる準備を整える」の指標の設定理由に、「緊急輸送道路に指定されている都市計画道路…」とあるが、都市計画道路自体は緊急輸送道路に指定されていないので、もし、この理由を都市マスに記載するのであれば、表現を変えた方が良い。	・緊急輸送道路の整備率はアウトプットではないかとのご指摘を踏まえ、将来目標指標を見直した。 ・新たに「避難・救助しやすい道づくり」や「物資や人を運びやすい道づくり」の成果として、主要生活道路以上の幹線道路において、道路閉塞の可能性が大きく低減する幅員 8 m 以上の路線割合がどれだけ増えたかを評価する指標に再設定した。
	進捗管理指標	（鈴木委員） ・取組の柱の 1 つである「④災害時の核となる防災拠点の形成」に関する進捗管理指標の記載が無いが、災害時に市民が頼ることができる重要な内容なので、少なくとも「その他の指標候補案」には記載して欲しい。（拠点の数？ 拠点までの距離のカバー率？ 拠点の人口カバー率？） （浪江委員） ・取組の柱⑤・⑥について、道路の拡幅は民地にも影響が及び、スピード感ある整備が難しいため、まずは特に人流が集まる都市機能誘導区域における電柱地中化を指標としてはどうか。 （田辺委員／調整会議での意見） ・緊急輸送道路の指標が設定されているが、どれだけ整備することを目標値として設定するのか。災害時の拠点となるような防災拠点の形成の方が重要ではないか。	・ご指摘を踏まえつつ、将来目標指標とのつながりを考え進捗管理指標はそのままとした。ご意見を頂いた「防災拠点」に関しては拠点数として【サブ】指標の 1 つとして整理することとした。
	将来目標指標	(意見なし)	－
	進捗管理指標	（高橋委員） ・市民の方で夜になると暗くて困っている方もいるかと思いますが、今回は主な取組として対応し、進捗管理指標としては多くの市民に関係する「地域と防災まちづくりの推進」を提案します。 ・近年、市内にはマンションが増え人口も約 14 万人超となり、日頃から自主防災組織(自治会、管理組合など)と市役所の連携が重要と考えています。	・ご指摘を踏まえ、都市計画部門が責任をもって取組をモニタリングする【メイン】指標としては「道路照明灯の設置件数」を設定する。【サブ】指標としては、ご意見を踏まえ「防犯カメラの設置件数」や「自主防災組織の結成率」等を設定し、日頃からの備えをモニタリングすることとした。

項目		ご意見	対応
		・また、「あさか防災」がありますが、避難所規模を考えると「地震発生時の在宅避難」が必須であり「在宅避難を推進するガイド」も必要となります。 ・今回は指標として以下のような進捗管理を考えています。 ・地域と防災まちづくりの推進 自主防災組織の結成率 R12 年度 100% 在宅避難ガイド作成、発行 R10 年度 ・都市建設部で管理できない評価指標かもしれませんが、「都市計画マスタープラン」策定は朝霞市であり、市長が了解できる項目であれば OK と思います。	
		（鈴木委員） ・道路照明灯と防犯灯を管轄する部門が違うという行政側の都合は判るが、防犯に対する市民目線では関係ないので1つにまとめて欲しい。照明整備を敢えて2項目挙げるのは、照明しか対応するつもりが無いように読み取られかねない。 ・防犯に対する市民目線では「暗い道がどれだけ未だ残っているか？」が気になるので、進捗管理指標としては設置件数ではなく「照明の道路カバー率」の方が適切ではないか？ もし件数で行くのであれば、全件数設置でどれだけの道路をカバー出来るのかを明示して欲しい。 ・防犯カメラに関する見解 5/29 の調整会議でも議論になりましたが、やはり載せるべきと考えます。警察など他組織管轄になるとは思いますが、"私らしい暮らし"で「※都市部だけでは取組を推進できないため、他部局と連携して推進する」とあるように行政全体としての対応を示すのが必要と思います。	
		（森部委員） ・他の委員の方と重複いたしますが、「道路照明灯の設置件数」の設定について、現在の市民感覚や地域の関心からすれば、夜間の安全性を担保する要素として、街灯の本数と同等以上に「防犯カメラの設置数・カバー率」の向上を求める声が主流であると感じます。 前回の調整会議において、防犯カメラは担当部局（他部局）が異なるため、まちづくり推進課として指標に記載しづらいという議論があったと認識しております。 しかし、市民目線に立てば、どの担当部署が設置したかに関わらず、空間としての安全性が高まることこそが重要だと思います。 そこで、 【はじめに】で申し上げたように、まちづくり推進課が直接管轄する街灯等を【主担当指標】とするならば、他の課が所管する防犯カメラについては、総合計画や防犯関連計画の数値をそのままスライドして【関連・参照指標】として本プランに位置付けたいかなと思いました。 これなら、役所の皆さんの手間や負担を増やすことなく、市民のリアルな声もしっかりカバーできて、お互いに安心できるのではないのでしょうか。	
		（浪江委員） ・事前防災は、行政だけでなく官民連携も重要であることから、民間施設（オフィス、商業施設等）における防災機能・備蓄倉庫の整備数（整備支援数）も加えてはどうか（取組の柱④とも関連）	

○テーマ【自然・環境】

項目		ご意見	対応
基本的な考え方①	将来目標指標	（神谷委員） ・ゼロカーボン達成の将来目標に対して、進捗管理指標が公共交通の年間利用者数、というのがピンとこない。むしろ快適な移動の管理指標にした方が良いのでは。 ・もう少し直接ゼロカーボンを測れる指標にするか、市で直接管理できる妥当な指標が無いのであれば、気候変動に対応することへの将来目標をゼロカーボンから変更した方がわかりやすくなると思います。	・ご指摘を踏まえ、「温室効果ガス排出量の抑制」を将来目標指標に設定し、進捗管理指標とのつながりがわかりやすい表現に見直した。
	進捗管理指標	（森部委員） ・環境（ゼロカーボン）の推進に向けて、進捗管理に「バスの利用者数」が設定されていますが、バスに乗る人を増やす取り組みは「移動」や「にぎわい」のテーマとも重なっていて、環境ならではの活動としては少し軸がブレてしまう気がします。ここは「乗り物の数」ではなく、直接CO2削減につながる活動をメインに据えた方がいいのかなと思います。 ・環境負荷の低減に特化させるならば、単なる乗車人数ではなく、「市内循環バスのEV（電動）化率」や「公共施設における再生可能エネルギー導入量（または脱炭素化の進捗率）」などとし、他部局の指標を【関連・参照指標】として連動させるのはどうかなと思いました。	・ご指摘を踏まえ再検討したが、将来目標指標の達成に向けて都市計画部門として責任をもって取組をモニタリングできる指標であること、温室効果ガス排出における「移動」の排出割合が比較的大きいこと、バス利用者数は重要な指標という意見もあること（下段参照）等を考慮し、公共交通のままとすることとした。 ・なお、公共交通の年間利用者数はご指摘のとおりアウトカム指標であるが、将来目標指標とのつながりのわかりやすさを考慮して設定した。 ・シェアサイクルなど、移動手段の多様化による自動車に頼らない移動へのシフトに関しては、「快適な移動の③自由な移動を支える」の中で対応した。
		（浪江委員） ・公共交通の利用者数拡大はアウトカムではないか。アウトプットであれば、民間バス事業者とも連携した、効率的なバスの運行本数・ルート設定・時刻表の見直し等を指標とすべきではないか。 ・自動車に頼らない移動へのシフトを企図するのであれば、シェアサイクルポートのカバー率やLuup等のモビリティ活用に向けた環境整備、パーク＆ライド／ウォークを促す駐車場・駐輪場の最適化を指標にできないか。 ・取組の柱③に関連して、住宅だけでなく、産業用地で整備が進む工場・物流拠点等のZEB化や緑地整備等、民間企業による公共公益への貢献も検討してはどうか。ただし、「にぎわい・活力」の産業立地に際し、過度な制約（高さ、緑地規制等）は投資先として魅力を低下させるため、留意が必要。 ・市民の健康づくりにも資するウォークブルの実効性を高めるには、歩きたくなる空間整備が重要。都市機能誘導区域における歩行者専用道路の整備（実証実験としてのホコテン回数）やグリーンインフラの整備に関する指標を加えてはどうか。	
		（村松委員） ・CO2排出量の削減はあらゆる分野で進める必要があり、事務局案に掲げられている「バス利用者の数」は重要な指標と思います。	
基本的な考え方②	将来目標指標	（意見なし）	－
	進捗管理指標	（鈴木委員） ・質問です。市内緑地面積に関わる進捗管理指標として、公園の整備面積を挙げていますが、「公園の面積＝緑地面積」として計上するのでしょうか？ 朝霞の公園は芝生ではなく土のところが多いように思います。	・朝霞市緑の基本計画では、公園の面積は緑地面積としてカウントしている。 ・都市公園の整備に伴い植栽等のみどりの確保を行うことから、公園整備面積が増えることは緑地面積の増加に直結すると考えている。 ・一方でご指摘のとおり、公園すべてが緑地とは言えないこと、また公園整備は周辺住民の遊び場や交流の場としての役割が大きいこと等を加味し、【メイン指標】としては既存の質の高いみどりを適切に保全できる「特別緑地保全地区の指定面積」を設定し、公園面積は【サブ指標】として設定することとした。
		（森部委員） ・「公園の整備面積（ha）」が挙げられていますが、人口減少などの現状を鑑みると、公園整備による面積減少の抑制は現状維持であり、本当に重要なのは、市民協働による「質の維持」だと思います。その他指標候補にある「公園・緑地管理ボランティア団体数・活動回数」の採用や、民間敷地の緑化を担保する「地区計画等による壁面後退・敷地内緑化率の適合件数」などを進捗管理指標にするなどし、持続可能な管理体制を評価することが豊かな緑のある暮らし（質の維持）へつながるのではないかなと思いました。	
		（浪江委員） ・市内緑地面積の減少トレンドに関して、①減少している緑地の属性（公園、街路樹、雑木林、生産緑地等）、②その要因（宅地等への転換・開発、担い手不足等による営農放棄、空地化等）を明らかにしたうえで、市としてどの緑地に対して優先順位をつけてアプローチしていくのか進捗管理指標に反映する形で整理してほしい。 ・市民満足度に対して整備および維持管理コストの見合わない面積拡大ありきの公園整備には反対。緑化推進の1つの手段としての公園整備自体に異論はないものの、管理不全による倒木や衛生環境の低下等のリスクにも目配せをお願いしたい。 ・滞在快適性等向上区域における緑化率を指標に加えてはどうか。	
基本的な考え方③	将来目標指標	（意見なし）	－
	進捗管理指標	（神谷委員） ・景観の取組に対する満足度向上について、管理指標が景観団体の活動実績というのもわかりにくい。そもそも景観団体の定義は何でしょう？景観団体の活動は何か市が奨励したりして増えるのでしょうか？仮にそうだったとしても、市が動いた結果そうになっている、とは市民にはわかりにくい。どこの景観を整備しました、という件数をカウントしたりした方が直接的でわかりやすいです。	・景観づくり団体とは、主体的に景観まちづくりに取り組む市民や事業者で組織される団体（概ね5人以上で構成された団体）のことである。 ・景観づくり団体は、地域の身近な景観づくり活動だけでなく、幅広い活動により景観まちづくりを担っていくことが期待される。このことから市では、認定した

項目		ご意見	対応
		(松村委員) ・ボランティア団体は、公園・緑地の「維持・管理」に大きな役割を果たしています。また、適切な支援策と組み合わせることで、「拡大・増加」にも役立つことから、景観計画ではボランティア団体数の増加を謳っていたように思います。	景観まちづくりを実践する団体に対して、その活動等に係る経費の一部について補助している。取組の柱として「協働による景観づくり」も掲げている。 ・そのため、市は取組を後押しすることが、市の景観の維持・向上に寄与するため、指標はそのままとした。

○テーマ【快適な移動】

項目		ご意見	対応
基本的な考え方①	将来目標指標	(意見なし)	－
	進捗管理指標	(森部委員) ・将来目標である「市内幹線道路の渋滞の解消」に対して、評価方法として「道路センサスにおける混雑度」の活用を想定されていると記載があり（右側のページ青文字）、とてもわかりやすいと思いました。しかし、それに対する現在の進捗管理指標が「都市計画道路の整備率（％）」の1つだけになっている点には、少し疑問を感じます。 ・大規模な道路整備は完成までに何十年もの長い歳月がかかるため、日々の渋滞がどう改善されていくのか、市民の目から見て「将来目標」と「進捗管理」の因果関係が少し見えにくいというか、わかりにくい気がします。 ・【はじめに】で記載させていただいた通り、ここも市民の目から見て「この身近な活動がんばってくれるから、渋滞が減るんだね」と一目で納得できる、明白なペア（メインとサブの切り分け）に整理していただけるとわかりやすいです。 ・進捗管理指標について、例えば主担当指標は、主要交差点の改良や、既存道路の改良・着手率（現在のその他の指標候補より）や、何十年もかかる「都市計画道路全体の整備率」よりも、渋滞の主な原因である「交差点の改良」や「既存道路のピンポイントな修繕」をメインの指標にした方が、まちづくり推進課のがんばりが市民の目にもハッキリ見え、渋滞緩和につながっている実感が市民の皆さんにも伝わりやすいのではないかと思います。	・ご指摘も踏まえつつ、将来目標指標とのつながりを意識して【メイン指標】としては「都市計画道路の整備率（柱①）」を設定し、【サブ指標】は各取組の柱に対応し、「交差点の改良件数（柱②）」、「自転車交通空間の整備延長（柱③）」を設定することとした。
	その他	(田中委員) ・「①まちの骨格となる幹線道路の交通流を円滑にする」のその他の指標候補案にある「道路や橋梁の改修率」について、市で独自に定義した数値をお持ちであればよいが、一般的に修繕の指標としては、道路であればM C I（轍やひび割れの数値的指標）を一定程度維持している延長の割合、橋梁であれば長寿命化修繕計画に基づく措置率とすると思うので、採用する場合は定義を明確にした方がよいと思う。	・現在採用の予定はないため、そのままとした。
		(松村委員) ・市内インフラの老朽化の程度を知りませんが、将来を見据えると「改修率」を加えておいた方がよいように思います。	・現在採用の予定はないため、そのままとした。
基本的な考え方②	将来目標指標	(意見なし)	－
	進捗管理指標	(鈴木委員) ・市民目線では危険な場所が残っていないことを知りたいので、歩道の整備延長（m）ではなく、歩道の整備率（％）として欲しい。 (浪江委員) ・取組の柱⑥に関して、特に中心市街地においては、共同荷捌き場や、需要に応じた駐車場・駐輪場の整備・集約に関する指標（整備数、支援数、用地買収・換地による区画整理）も必要ではないか。また、取組の柱④、⑤や「にぎわい・活力」、「私らしい暮らし」にも関わるが、野放図に住宅等の除却後に青空駐車場化されたり、相続等のタイミングで所有権が他の事業者・個人にわたり、セットバックの余地がないまま新たな建物を建築されると、将来目標指標・市民満足度指標にも悪影響を及ぼす恐れがある。	・ご指摘を踏まえ、進捗管理指標【メイン】を「主要生活道路以上の幹線道路における歩道の整備率」に変更した。 ・ご指摘を踏まえ、取組の柱⑥に対する進捗管理指標【サブ】として「放置自転車の件数」を設定し、適正な道路環境保持の進捗を把握することとした。 ・取組の柱④と⑤に対するご指摘はそのとおりであるが、指標としての設定やモニタリングが難しいと判断し、別の指標を設定することとした。
基本的な考え方③	将来目標指標	(浪江委員) ・公共交通利用圏域の主体として、鉄道・バス以外にタクシーやシェアサイクル等も想定しているのか伺いたい。 ・公共交通の拡充を図ることでカバー率を上げることを念頭に置いていると思われるが、持続可能性や利便性も考慮し、公共交通エリア内での集住を進めるコンパクト化の視点も必要ではないか。	・公共交通利用圏域で対象としている交通は、「鉄道」と「バス」のみである。 ・ご指摘はそのとおりであるが、市街化区域（居住誘導区域）外にある既存集落地の存在等を考慮し、市全体として移動環境が確保され、住み続けたいと思う環境を整えることを目標として掲げたい。 ・一方でメリハリの視点も重要であり、公共交通を適切に維持していくことを目的に居住誘導等を図っていくことも必要と認識している。
	進捗管理指標	(鈴木委員) ・地方で「バス路線はあるが1日1～2本しか走っていないので足として役立たない」という問題が発生しています。ルート数（面積カバー率）だけではなく、運行頻度（時間カバー率）も含めて欲しい。 (森部委員) ・進捗管理指標の「バスのルート数」は、5年の間で頻繁に増減する数字ではないため、これだけでは日々の移動の利便性が上がっているのか見えにくいと感じます。 ・市民がよく使う「シェアサイクル」の利用者数や、「バス停・駅から歩いてすぐの場所にどれだけ人が住んでいるか」という生活者目線のデータなど取り込めたらいいのかなと思いました。 ・【はじめに】で記載させていただきましたが、「自局で管理するメイン」と「他からデータを持ってくるサブ」に切り分ければ、役所の負担を増やさずに済むのかなと思います。 ・例えば、主担当指標を市内循環バスおよびわくわく号のルート数とし、関連・参照指標として、シェアサイクルの年間利用者数・ステーション数の把握、自動車の分担率の減少など。 (浪江委員) ・物価高やドライバー不足に直面する中で、全国的に路線バスの事業環境は厳しさを増している。このため、ルート数拡大のみを求めることは非現実的ではないか。前ページと同様、ルート数だけでなく、運行本数・ルート設定・時刻表の見直し・車両のダウンサイジング（デマンド化含む）等、効率化・適正化にも目配せした管理指標とすべきではないか。 ・その際、生活圏を考えて、より効率性や住民満足度・利用者増加が見込めるのであれば、和光・志木・新座の行政区域を越えたルート設定（実証実験含む）の指標化も検討してはどうか（第2次朝霞市地域公共交通計画の計画目標に「広域連携」が定められており、制度上、立地適正化計画と地域公共交通計画の連携を図ることとされている）。	・市内のバスにおいて、少なくとも1～2時間に1本程度の頻度でバスが運行しているが、ご指摘の状態にならないようバス事業者等と連携して取り組んでいく。 ・進捗管理指標としては、将来目標指標とのつながりを意識して、指標はそのままとした。 ・ご指摘を踏まえ、【メイン指標】はそのままとし、【サブ指標】として「シェアサイクルの年間貸出回数」、「まちなかベンチの設置件数」を設定した。 ・ご指摘はそのとおりであるが、指標の設定が難しいこと、将来目標指標とのつながりを意識して、【メイン指標】はそのままとし、【サブ指標】として「シェアサイクルの年間貸出回数」、「まちなかベンチの設置件数」を設定した。

○テーマ【にぎわい・活力】

項目		ご意見	対応
基本的な考え方①	将来目標指標	（森部委員） ・日常的な駅前拠点のにぎわいと活力の定着など、イベントの時だけでなく、普段から駅前に人が集まり、にぎわっている状態をゴールにするのはどうかと思います。 （浪江委員） ・「産業分類上の整理から、飲食・サービスも含む「小売り」との整理がされているが、日本標準産業分類上では、卸売・小売、宿泊・飲食サービス、生活関連サービスと別ではないか。仮に「小売り」に飲食・サービスも含むとしても、市民からすると分かりづらく、注釈を入れるか、併記する方がいいと思われる。 ・すでに駅周辺にスーパー等が一定程度集積している中で、さらなる小売事業所数の増加はオーバーストアになるのではないかと。需要に対して足りない想定される小売事業所の業種・業態が不明瞭なまま目標設定することに疑問がある。 ・エリア価値の向上に比例して上昇・改善すると思われる地価や空き家・空き店舗比率、空室率なども1つの指標になりうるのではないかと。	・ご指摘を踏まえて「小売り事業所数の増加」はとりやめ、基本的な考え方が達成されている状況を表現できる指標として、「各駅周辺の歩行者交通量の増加」を将来目標指標に設定することとした。 ・浪江委員よりご提案頂いた指標案は、都市計画以外による影響が大きいこと、現時点の状況を把握することが困難であること等を踏まえ、にぎわい創出の取組による直接的な効果を把握できる「各駅周辺の歩行者交通量」を指標として設定することとした。
	進捗管理指標	（鈴木委員） ・本件における都市機能誘導区域という用語が目的と一致していない。 マスタープランの50頁の地図で「都市計画を活用したにぎわい・活力の創出を図るエリア」は都市機能誘導区域の一部なので、本件を言葉で表すならば詳細な表記が必要と思います。 以下のいずれかとして欲しい。 1：駅前エリア（都市機能誘導区域の一部）とする。 2：用語集にて解説する。 （森部委員） ・「イベントの開催箇所数」は、その時だけの一時的なにぎわいを測るものになってしまい、市民が日常的に「駅前が活気づいてきたな」と実感できる部分とは少しズレているように感じます。 ・主担当指標を駅前広場や歩行者空間（ほっと茶屋跡地など）の普段の滞留人口（歩行者量）などとすると、まちづくり推進課が広場をきれいに整備したり、日常的な仕組みを作ったりして増やせるので、市民の目にも効果がハッキリ見えるかなと思います。 ・そして、関連・参照指標を朝霞駅・北朝霞駅・朝霞台駅の乗降客数の推移や官民連携によるイベント開催数などとして、鉄道会社の乗降客数や、単発のイベント数は、事務局が直接コントロールできるものではないので他部署や他機関から共有してもらう形で実数値を載せると市民の皆さんはにぎわいや活力を目に見えて感じられるのではないのでしょうか。 （浪江委員） ・イベント開催だけに頼る賑わい創出は持続性が低い。日常的に駅前エリアに人が滞在・回遊する仕組みづくりが重要であるため、快適な歩行者空間の整備（道路拡幅、歩行者専用道路化）等も指標としてはどうか。 ・都市機能誘導区域において商業（小売、飲食、その他サービス）やオフィス（コワーキング等含む）、パブリックスペース等の多様な都市アメニティが揃い、多世代が集まる空間形成を目指すことが重要。そのため、同区域の歩行者・自転車通行量の増加や滞在時間、誘導施設・特定業務施設の整備数などを指標化できないか。 ・商業系の事業所数増加を将来目標にするのであれば、創業・出店に関する管理指標（創業支援数、インキュベーション施設の整備・利用率等）も必要ではないか。	※都市マス P.50 の図では「都市計画」ではなく「地区計画を活用した…」であり、都市機能誘導区域の一部範囲で地区計画を活用した空間の創出や1階部分の土地利用を誘導している。 ・ここでは、将来目標指標の達成に向けたここ5年の取組として、まずは駅周辺に来てもらうきっかけづくりから取り組んでいきたいと考え指標を設定した。 ・ご指摘は取組の進捗を測る指標（アウトプット）ではなく、取組による効果を測る指標（アウトカム）であることから、将来目標指標の設定の参考とさせていただいた。 ・ここでは、将来目標指標の達成に向けたここ5年の取組として、まずは駅周辺に来てもらうきっかけづくりから取り組んでいきたいと考え指標を設定した。
		（森部委員） ・件数ではなく、区画整理事業等の現在の“進捗率”の方がいいのかなと思います。「何件終わったか」ではなく、「今全体の何パーセントまで工事が進んでいるか」をメインの指標にすれば、がんばっている途中のプロセスが市民にもハッキリ伝わると思いました。 ・関連・参照指標で、毎年企業誘致や新しく会社が建った件数を設定し、他部署が担当するような実際の企業誘致の成果などを紐付け、連動させるのが良いのかなと思います。	・ご指摘はそのとおりであるが、今後土地区画整理を実施する地区が増える可能性を考慮すると、進捗率での評価が難しいことから、事業件数のままとした。 ・【サブ指標】としては、ご指摘のとおり、産業誘致件数を設定した。
基本的な考え方②	将来目標指標	（意見なし）	—
	進捗管理指標	（森部委員） ・件数ではなく、区画整理事業等の現在の“進捗率”の方がいいのかなと思います。「何件終わったか」ではなく、「今全体の何パーセントまで工事が進んでいるか」をメインの指標にすれば、がんばっている途中のプロセスが市民にもハッキリ伝わると思いました。 ・関連・参照指標で、毎年企業誘致や新しく会社が建った件数を設定し、他部署が担当するような実際の企業誘致の成果などを紐付け、連動させるのが良いのかなと思います。	・ご指摘はそのとおりであるが、今後土地区画整理を実施する地区が増える可能性を考慮すると、進捗率での評価が難しいことから、事業件数のままとした。 ・【サブ指標】としては、ご指摘のとおり、産業誘致件数を設定した。
基本的な考え方③	将来目標指標	（意見なし）	—
	進捗管理指標	（浪江委員） ・地域資源活用においては、民間のノウハウ・資金を呼び込むことも必要であるため、例えば、公的施設・公園・歴史的建造物等の整備・活用に係る PFI・スモールコンセッションの実施数やプロポーザル数などを指標化してはどうか。	・ご指摘はそのとおりであるが、対象になり得るものが少ないこと、将来目標指標とのつながりを意識して、【メイン指標】そのままとした。 ・一方で、民間のノウハウや資金を活用した官民連携による取組は重要であることから、【サブ指標】として「自然環境・歴史・文化資源を活かしたイベント」を追加した。

○テーマ【私らしい暮らし】

項目		ご意見	対応
基本的な考え方①	将来目標指標	（浪江委員） ・「土地利用への満足度」はどういう指標を想定しているか。市民からすると答えづらいのではないか。また、土地利用ということは、市街化調整区域における宅地等の開発行為の規制強化や白地解消を図るということか。「自然と調和した適正な居住誘導と緑被率の向上」などの方が分かりやすいように感じる。 ・取組の柱をみると、「快適な移動」や「にぎわい・活力」で掲げた取組の柱と重複感があるが、前2つの指標とどう整理しているか。	・基本的な考え方①では、住まいの選択肢があり、それぞれの地域の魅力をさらに伸ばしていくことを目的に位置づけたものである。 ・ご指摘のとおり「土地利用への満足度」と言われても答えづらいため、居住地としての満足度の達成状況を把握する指標として「ライフスタイルに応じた住環境の満足度の増加」に変更した。
	進捗管理指標	（鈴木委員） ・市民目線ではどこまで整備が進んだかが大切なので、「手続きの件数」ではなく、基準や条例に準拠して「整備された件数」が適切と思います。開発することが最終目的ならば手続き件数を進捗管理指標とすることも判りますが、開発することは満足度増加に向けての手段ですので、完成件数で管理すべきと考えます。 ・その他の指標候補案が空欄ですが、検討過程で出たものを記載すべきと思います。	・ご指摘を踏まえ、開発許可時の緑地確保に対する指導の整備率は100％であるが、その状態を維持することを目標値に掲げることとした。
		（森部委員） ・将来目標である「自然と調和した適正な土地利用への満足度の増加」というゴールは、朝霞ならではの豊かなみどりと暮らしやすさが両立する素敵な目標だと思います。 ・しかし、それに対する進捗管理指標が「条例の手続き件数（民間のマンションや建物の建設件数など?）」になっている点には、少し違和感があります。 ・民間の開発件数は社会の景気に左右される受動的な数字だと思うので、行政が目標達成に向けてどれだけ主体的にがんばったかという物差しとしては少し馴染まない気がします。 ・「住宅街の中の農地（生産緑地・特定生産緑地など）を維持・指定している面積」などにするのはどうでしょうか。 ・将来目標である「自然との調和」を市が主体的に進めるために、一番直結する活動がこのみどりや畑の維持だと思います。 ・そして、関連・参照指標として開発事業者等の手続き件数を据え置くのはいかがでしょうか。	・ご指摘を踏まえ、条例の手続きに加え、【サブ指標】として生産緑地の面積を設定し、自然と調和した土地利用の実態をモニタリングすることとした。 ※生産緑地制度は、相続等により解除され宅地化されてしまうケースが多々あり、市としてのコントロールが難しいところがある。
		（浪江委員） ・手続き件数について、増加する方がいい（開発事業者等による開発を促す）のか、件数を抑制する方がいい（拡散的な開発を制御する）のか、どちらか。	・解釈としては両方で、開発を受け付けつつ、開発地はしっかり誘導・指導していく（居住誘導区域外の開発は基本抑制していく）ことを目指していたが、手続き件数はご指摘を踏まえて見直した。
		（田中委員） ・開発の手続き件数の増加が、方針や将来目標指標の達成に直接結び付かないのではないか。市が主体的に取り組む施策、主な取組の中から指標を選定してはどうか。	
基本的な考え方②	将来目標指標	（浪江委員） ・「生活サービス」の想定業種・業態は何か（小売、飲食、理美容、SS、葬祭、医療・福祉、教育、娯楽、交通、運輸など）。また、「暮らしを支える生活サービスの質を高める」とあるが、民間領域も含め、サービスの質に対して自治体がコミットすることは可能なのか。取組の柱や進捗管理指標をみると、「生活サービスへのアクセシビリティに対する満足度向上やアクセス時間短縮」の方が適切に感じる。	・生活サービス施設の立地は、立地適正化計画で誘導施設を位置付け届出制度を運用しているものの、行政がコントロールするには限界がある。 ・そのため、ご提案頂いた「生活サービスへのアクセシビリティ（利用しやすさ）に対する満足度向上」を指標に設定した。
	進捗管理指標	（浪江委員） ・徒歩圏カバー率を優先すると、将来の需要予測（全体としての人口減少、DID人口の増加）に合わない市街地の拡散を招く恐れはないか。 ・サービス内容によって商圈は異なるため、徒歩圏である必要がない業態もあるのではないか。公共交通や駐車場等も含めたアクセス性を指標化できないか。 ・公共サービスを提供する公的施設については、防災拠点などの複合的な役割を担うことを鑑み、既存建物の改修や建て替えを指標化してはどうか。特に市庁舎は従前から長寿命化対策が行われているが、その立地の優位性や意義を鑑みれば、建て替え・複合化によって機能強化を図ってもいいように思う。 ※市長選において、現市長は市庁舎の建て替えを公約に掲げていたと史料。	・立地適正化計画において、市内の生活利便性を維持していくためには、生活に必要な不可欠な機能は拠点に集約するのではなく、まんべんなく配置され、概ね徒歩圏で利用可能な状態が望ましいとしており、その状態を目指すことを考慮し、指標を設定している。
基本的な考え方③	将来目標指標	（浪江委員） ・「私らしくいられる」は抽象的かつ市民のライフスタイル・世帯構成等の外部要因の影響も受けやすく、アウトプットに対する成果（アウトカム）として測りにくいのではないか。 ・「私らしく」が、例えばまちなかでの食べる、遊ぶ、くつろぐ、働く、学ぶ、買うといった都市アメニティの多様性やウォカブル・緑などの滞在快適性などを指すのであれば、市民幸福度（ウェルビーイング指標）の向上や滞留時間の拡大、昼間人口の増加、誘導施設・特定業務施設の施設数・整備数・床面積・利用者数などが考えられるのではないか。	・ご指摘を踏まえ、ご提案の中にあった「私らしくいられる」を表現できるデジタル庁が公表する「市民幸福度」を指標に採用することとした。
	進捗管理指標	（高橋委員） ・進捗管理指標「私らしく働く場、活躍できる場の件数(件)」が候補として挙がっていますが、件数の集計方法や方針への貢献度がハッキリしません。 ・③の将来目標指標「私らしくいられる場や居場所があると回答する市民の割合の増加」を考慮すると進捗管理指標「インクルーシブなまちづくりの推進」は如何でしょうか？ ・インクルーシブなまちづくりとは、年齢・性別・障がいの有無・国籍・宗教・性的指向などの違いに関わらず、すべての人が安心して参加・生活できる地域社会をつくる取り組みです。 ・まだ、全国的にもインクルーシブなまちづくり推進を宣言している市町村は少ないですが、インクルーシブ推進課を設置している市もあります。朝霞市は「インクルーシブ遊具」設置などの実績がありますが、あまり知られていません。 ・今回、指標としてインクルーシブ・スポーツに絞り、以下のような進捗管理を考えています。 R8 年 インクルーシブ・スポーツ検討 R9 年 インクルーシブ・スポーツ試行 R10 年 インクルーシブ・スポーツ施行 R11 年 インクルーシブ・スポーツ評価	・都市計画部門の取組として、インクルーシブ遊具の設置を進めていることから、【サブ指標】として「インクルーシブ遊具の設置箇所数」を設定することとした。

項目		ご意見	対応
		・都市建設部で管理できないかもしれませんが、これからのまちづくりに欠かせない活動だと確信しています。「都市計画マスタープラン」策定は朝霞市であり、市長が了解すれば OK と思います。	
		(鈴木委員) ・例として挙げている「インキュベーション施設」の解説を、本文の用語集に追加してください。	・ご指摘を踏まえ、用語集に追加する。
		(森部委員) ・コワーキングスペースや、歩行者利便増進道路などを増やす取り組みは、多様なライフスタイルに合っていて本当に素敵だと思います。 ・ただ、進捗管理が単なる「作った場所の数」だけになってしまうと、作っただけで終わりになっていないか、実際に市民がそこを居心地よく使えているのかが見えてきません。 ・ここも、作った場所の数と、そこがどう活かされているかが明白になるよう整理をお願いできたらと思います。 ・主担当指標として、コワーキングスペースや歩行者利便増進道路等の指定箇所数とし、関連・参照指標として、市民活動や新しい公共スペースの利用満足度（または実際に活用されている箇所数などとしたら、「ただ作った数」だけでなく、市民がどれだけ笑顔でその場所を活用できているかという満足度が測れるのではないかと思います。	・ご指摘はそのとおりであるが、満足度についてはアウトカム指標となるため、将来目標指標の設定の参考にさせていただいた。
		(浪江委員) ・取組の柱⑨に「多様な主体の共創」とあるが、主な担い手は経済団体や民間企業、団体（都市再生推進法人や景観整備推進法人、空家等管理活用支援法人等を含む）といった、一定のリソースを有する主体であることが想定されるため、そうした団体等に対する支援件数を加えてはどうか。	・ご指摘を踏まえ、新たな設備投資や事業拡大に取り組む事業者への支援やアイデアコンテストを実施し若年層のモノづくりへの関心を高めていくなど「社会環境の変化をリードする新たな産業の育成」として産業部門で支援していることからサブ指標として設定した。
		(神谷委員) ・現在の進捗管理指標、私らしく働く場、活躍できる場の件数カウントですが、「私らしく」の定義が人それぞれなので何をカウントするのが良くわかりません。 ・なんとなく活躍できる場というのを、課外活動とか屋外アクティビティとしてしか扱っていないような感じがします。アクティブな人ばかりではないし、Eスポーツなら自宅が私らしくいられる場かもしれないし、川沿いを散歩するのが私らしいと感じてる人もいるでしょう。何をカウントするのかな、と思ってしまいます。 ・それであれば将来目標はその他の案に書いてある「これからも朝霞市に住みたいと思う人の割合の増加」にして、別の進捗管理指標を見た方がわかりやすいです。	・「私らしく働く場、活躍できる場」とは、働く場であったり、イベントの場であったりと多様な形態が該当する。メイン指標とサブ指標でそれぞれの取り組みの柱の指標を置くことでカウントがしやすくなった。 ・市としては多様な働く場の確保や、屋外で思い思いの過ごし方ができ、居心地の良い場をつくることを積極的に取り組んでいきたいため。